

芦屋市地域福祉市民会議

(地域福祉を話しあう会)

報 告 書

平成23年1月

芦屋市地域福祉市民会議

目 次

報告書の作成にあたって	1
市民会議の経過	2
話しあいのなかで見えてきたこと・みんなで考えたこと	7
1. 芦屋市の地域福祉の課題	7
2. 課題の原因と、解決していくためのヒント	10
3. 課題を解決していくために、わたしたちができること・したいこと	13
4. 具体的提案「わたしたちがこれからやりたいこと」	16
5. 「みんなで話しあう場」を広げていくために必要なこと	22
6. 市民意識調査で確認してほしいこと	24
7. 市民会議を終えてのメッセージ	25
資 料	31

報告書の作成にあたって

芦屋市では、平成19年3月に策定した「芦屋市地域福祉計画」の計画期間が平成23年度で終了することをふまえ、これを引き継ぐ「第2次芦屋市地域福祉計画」の策定に向けた取り組みを平成22年度から開始しました。

その第一弾となるのが「芦屋市地域福祉市民会議」です。この会議は、第2次地域福祉計画に関して“市民の意見を聞く”ことを目的として設置されました。

一方、「地域福祉」は、現行の地域福祉計画で「誰もが人間としての尊厳をもち、地域社会の一員として、その人らしい自立した生活が送れるよう、地域住民や福祉サービスを提供する事業者、ボランティア、様々な団体、組織、行政など、すべての者が協力し合い、互いに支え合う地域社会をつくる取り組みや、仕組みづくり」と位置づけているように、市民は「受け手」である同時に「担い手」となるものです。したがって、その指針となる地域福祉計画について、市民は「意見を言う」だけでなく、「自分たちができることを考え、実践していく」主体として関わっていく立場にあります。

そこで、市民会議を通じて“第2次地域福祉計画に市民の意見を的確に反映する”ことはもちろん、“市民が主体的に参加して策定・推進する計画にしていくよう、とことん話しあい、考えあう場にする”にはどうすればよいか”を、事務局（地域福祉課）と専門委員として参加していただく学識者の先生方、専門的な立場で支援するサポーターで考えました。

その結果、当初予定していた3回の会議では、課題を出しあうことはできても、メンバーの主体的な取り組みなども含め、課題の解決に向けた検討をすすめることは難しいこと、また、メンバーどうしの交流を深め、いっしょに取り組んでいくつながりづくりをすすめていくうえでも十分ではないと考え、2回の「自主ゼミ」を加えて、計5回の話しあいを重ねていくことにしました。

市民会議のメインのメンバー（委員）は、公募の6人と、地域福祉に関わる団体や機関などから選出された26人の、計32人の市民のみなさんです。芦屋市で生活し、または働き、地域福祉に関心をもったり、さまざまな活動を行っている方々が、一堂に会してお互いの思いを出しあい、理解を深めながら、熱心に議論していただきました。

この報告書は、6か月にわたる5回の会議での議論を通じてまとめられた提案や、取り組みのプロセスを通じて見えてきたことなどを、メンバーの言葉を最大限に活かしてまとめたものです。本来はメンバーのみなさんといっしょに考えていくべきものですが、今回の市民会議では会議の企画・運営にまで十分に関わっていただくことができなかつたことは、今後の取り組みに向けた大きな反省点です。そうした点も含めて、この報告書が今回の市民会議に続く第2次地域福祉計画づくりの議論の素材として活かされるとともに、この会議のような話しあいがさまざまなところで取り組まれるうえでの参考資料となることを、心から願っています。

市民会議の経過

1. 市民会議を設置した目的

「芦屋市地域福祉市民会議」は、「第2次芦屋市地域福祉計画」の策定における市民参加のひとつとして、地域福祉に関心を持ち、地域福祉に関わる活動や事業などを行っている市民が意見を出しあい、第2次地域福祉計画に向けた提案を取りまとめることを第一の目的として設置しました。

あわせて、この計画を効果的に推進していくためにも、市民会議での話しあいを通じて、地域福祉に関わりをもつ市民がお互いの理解とつながりをいっそう強化し、“より多くの市民や団体の参加と協働のもとで「芦屋市の地域福祉」をすすめていくしくみづくり”につないでいくこともめざすこととしました。

2. 会議に参加したメンバーの構成

市民会議の委員は、公募して選定した6人と、地域福祉に関わる団体・機関に選出を依頼した26人（途中で交代された2人を含む）の、計32人です。

また、専門委員として学識者3人、会議の企画・運営を支援するサポーター4名、市の関係部局の職員3名、事務局である地域福祉課の職員5名も、それぞれの役割で会議に参加しました。メンバーは、次ページの表1のとおりです。

3. 会議のルール

市民会議では、さまざまな立場のメンバーが効果的に話しあいをすすめることができるよう、つぎの4つのルールを設定し、毎回、会議の冒頭で確認しながらすすめていきました。

- ①芦屋の地域福祉を、とことん考える半年に！
- ②思い込みは捨てよう！ → 違った角度の意見から新しいアイデアが出てくることを、大切にしましょう。
- ③あなたも、私も大切に！ → 意見が衝突したときも、お互いを尊重して会議を運営しましょう。
- ④つながろう！ → 一期一会を大切にして、日々の活動につないでいきましょう。

このルールからもわかるように、市民会議は「参加型の会議」のスタイルで、メンバーにできるだけ主体的に話しあっていただくことをめざしました。

表1 芦屋市地域福祉市民会議のメンバー

区 分	所 属	氏 名
委 員	芦屋市社会福祉協議会	宮 平 太
		佐津間 裕美子
	芦屋市自治会連合会	今 村 千 顯
		本 郷 孝
	芦屋市民生児童委員協議会	福 井 千 鶴
		東 郷 明 子
		目 黒 清 子
		半 田 孝 代
	芦屋市福祉推進委員	片 山 良 子
		山 本 弘 美
		内 藤 友 子
	芦屋市コミスク連絡協議会	隈 本 由紀子
		多 田 洋 子
		守 上 三奈子
	芦屋市子ども会連絡協議会	北 中 清 史
	芦屋市老人クラブ連合会	福 永 公 子
	あじさいの会 (第2回市民会議から) (第1回市民会議から自主ゼミ①まで)	中 谷 多恵子
		浅 田 廣 子
	芦屋市身体障害者福祉協会	杉 田 俱 子
	芦屋市身体障害児者父母の会	木 村 和 子
	NPO法人芦屋市手をつなぐ育成会	朝 倉 己 作
	芦屋家族会 (自主ゼミ①から) (第1回市民会議)	中 島 洋 子
		島 サヨミ
	芦屋市商工会	中 村 美津子
	(特活)あしやNPOセンター	上 野 義 治
	芦屋いきいき学ぶ会	三 木 弘 子
	公募委員	鴛 海 一 吉
船 橋 久 郎		
姉 川 昌 雄		
久 武 正 明		
許 和 子		
野 島 さゆり		
専 門 委 員	関西学院大学 教授	牧 里 毎 治
	関西学院大学 准教授	孫 良
	甲南女子大学 准教授	佐 瀬 美恵子
サポーター	大阪ボランティア協会	岡 村 こず恵
	エフプラン研究所	原 田 仁
	関西学院大学 学生	和 気 輔
事 務 局	保健福祉部長	磯 森 健 二
	地域福祉課	寺 本 慎 児
		竹 迫 留利子
		小 川 和 真
		松 井 佑 季
	福 岡 枝里子	
	高年福祉課	細 井 洋 海
吉 川 里 香		
オブザーバー	大阪ボランティア協会	江 渕 桂 子

4. 会議の流れ

市民会議では、自主ゼミ2回を加えた計5回の会議を開催しました。なお、自主ゼミは、当初予定していた3回の会議では十分な話しあいの時間が取れないと判断し、(できるだけ参加していただけるよう呼びかけながら)自由参加として開催したものです。

会議全体は、つぎのような流れですすめていきました。

①まず、メンバーどうしが、それぞれの思いや活動していることなどの自己紹介を行うとともに、現行の地域福祉計画をもとに、「地域福祉計画とは何か」、「現行計画はどこまですすんだのか」を確認しあいました。【7/10 第1回市民会議】



②そのうえで、現在、芦屋のまちにはどんな地域福祉の課題があるのかを、メンバーのそれぞれの生活や活動をふまえて出しあいました。【8/28 自主ゼミ①】



③そして、それらの課題を第2次地域福祉計画に的確に反映していくよう、優先度も考えながら整理し、課題を引き起こしている原因や、解決していくためのヒントについても考えました。【9/10 第2回市民会議】



④ここからが、今回の市民会議のひとつのポイントである「わたしたちができること」を考える話しあいです。課題と原因をふまえて、市民の立場で「わたしたちができること・したいこと」を出しあいました。そして、たくさんのアイディアのなかから、「具体的にやりたいこと」を1つ選び、企画書を作成しました。

【10/23 自主ゼミ②】



⑤最終回は、これまでの話しあいをまとめた「第2次地域福祉計画に向けた提案」を、4つのグループでプレゼンテーションしました。そのなかで、課題をあらためてまとめ直してポイントを明らかにするとともに、市民が主体的に参加しながらすすめるプロジェクトが具体的に示されました。【12/13 第3回市民会議】

各回の開催概要は、次ページの表2のとおりです。

今回の市民会議では、専門委員やサポーターなどの外部のメンバーが参加したため、日程調整が難しい面がありました。また、さまざまな活動をされているメンバーが多いため、活動と重なって参加できない場合も多く、参加者が少なくなってしまった回もあることは、運営上の反省点です。

表2 芦屋市地域福祉市民会議の開催経過

会議名	日時	テーマ	会場	参加
第1回 市民会議	7月10日(土) 18:00～20:30	地域福祉計画の概要 ～ 3年間やってきて、どうだったのか？	市役所分庁舎 2階大会議室	26人
自主ゼミ ①	8月28日(土) 13:30～17:00	もっと深める芦屋のこと ～ 何ができたのか、課題は何か？	福祉センター 3階第1会議室	15人
第2回 市民会議	9月10日(金) 13:30～17:00	課題を整理し、重点課題を絞る	福祉センター 3階第1会議室	22人
自主ゼミ ②	10月23日(土) 13:30～17:00	このような現状を変えるために、 自分たちでできること／やってみたいこと	福祉センター 3階第1会議室	13人
第3回 市民会議	12月13日(月) 13:30～17:00	最終プレゼンテーション ～ 地域福祉計画に向けて	福祉センター 3階第1会議室	19人

※「自主ゼミ②」と「第3回市民会議」の間に、一部のメンバーが自主的に集まり、提案のとりまとめの作業などを行いました。

※「参加」の欄の人数は、委員の参加者数です。

5. 第2次地域福祉計画づくりに向けた今後の展開

市民会議で議論した内容はこの報告書にとりまとめ、「第2次芦屋市地域福祉計画策定委員会」での審議をはじめとする計画策定のプロセスに反映していきます。

また、公募委員のなかから2人と、関係団体・機関から選出された委員の一部は、策定委員会に参加します。

あわせて、第2次地域福祉計画づくりでは、市民会議の成果もふまえて、策定委員会と並行して「検討委員会（検討部会）」を設置し、市民参加で検討をすすめていきたいとの方向性が出されました。この委員会（部会）に、策定委員会委員以外の市民会議のメンバーの参加を呼びかけていきます。

なお、計画づくりの取り組みと並行して、「話しあいのなかでできてきたこと・みんなで考えたこと」の「みんなで話しあう場を広げていくために必要なこと」に記載したように、今回の市民会議のような話しあいの場を継続していくことや、地域に根ざした話しあいを行っていくことなども、市民会議の成果をふまえた今後の展開として期待されます。

話しあいのなかで見えてきたこと・みんなで考えたこと

1. 芦屋市の地域福祉の課題

市民会議では、まず、現行の芦屋市地域福祉計画の進捗状況（市や市民などができたこと・できなかったこと）を振り返ったうえで、それぞれの立場で第2次地域福祉計画に向けた「課題」を、“よりよい街にするために、もっと必要だと思うこと／あったらいいなと思うこと”という前向きな切り口で出しあいました。

そして、類似するものを集めて、つぎの8つに整理しました。

これらは、市民会議のメンバーが、芦屋市の地域福祉をすすめていくうえで、ぜひとも必要だと考えていること（課題）です。ほとんどのメンバーが現在も地域でさまざまな活動を行っていることから、どちらかといえば「担い手」として感じている課題が多くなっている側面はありますが、市民意識調査などでより多くの市民の意見をきいて普遍化を図りながら、第2次地域福祉計画の重要課題として反映されることが期待されます。

よりよい街にするために、もっと必要だと思うこと／あったらいいなと思うこと

① 「市民と市民」 / 「市民と行政」との協働をもっとすすめたい

【具体的な課題】

- ・一人ひとりの“この街を良くしたい”という気持ちを出し合える場。
- ・市職員が市民の中にもっと入っていく必要がある。
- ・市民と行政とが真の協働を目指そう（行政は現実（現場）を知ることから）。
- ・机上の話し合いではなく市民の目線で動こうとする態度が、市の方々に見られればと願う。
- ・色々な窓口はあるが、「さてと」という時に解答が出るような、出ないような。
- ・福祉サービスについて、行政と地域とのパイプをどのように強化するか。

よりよい街にするために、もっと必要だと思うこと／あったらいいなと思うこと

② 地域の住民や団体等のつながりをもっと強くしたい

【具体的な課題】

- ・いろんな組織がもっと横につながりたい（自治会、老人会、防災委員、民生委員、行政）。
- ・行政（市）の縦割りに不平・不満を言わず、（市民の集まりによる）横の関係を築こう。
- ・各地域の情報（横の情報）をもっと共用できないか。
- ・この場の人的ネットワークを活かす（この場限りにしない）。

よりよい街にするために、もっと必要だと思うこと／あったらいいなと思うこと

③ 地域福祉活動、ボランティア活動の担い手を増やしたい

【具体的な課題】

- ・質・量ともにボランティア活動の担い手や、住民参加を増やしたい。
- ・市職員、市民がもっとボランティア意識をもつこと。
- ・住民間の福祉に対する意思の共有をはかりたい。
- ・ボランティアを難しく考えないで、ちょっとの時間を作ってやってみてほしい。
- ・若い世代の地域への積極的な関わり（働いている方が多く、なかなか関わりがもてない）。
- ・地域社会に、芦屋大学の若いエネルギーを活用しよう。
- ・地域福祉の専門職が重要。

よりよい街にするために、もっと必要だと思うこと／あったらいいなと思うこと

④ 地域生活での困りごとを支援するサービスや活動を充実したい

【具体的な課題】

- ・公園、道路の清掃（地域を美しくし、近隣のゆるやかな付き合いをすすめる）。
- ・高齢者の一人住まいの方の困りごと（83歳の方がマイカーを運転して買物に行くなど）へのサービス。

よりよい街にするために、もっと必要だと思うこと／あったらいいなと思うこと

⑤ 「行政」 / 「地域」 / 「個人」の情報をもっと生かしたい

【具体的な課題】

- ・福祉サービスの伝え方のマニュアル（行政が作るものでなく、市民の目線で）の作成。
- ・ニーズのレベルに応じた福祉情報を、整理して提供する。
- ・情報弱者をなくすような「広報あしや」の充実（必要な人に必要な情報を確実に届ける）。
- ・市民への情報提供（市の情報を市民が知らない）。
- ・市がやろうとしている福祉施策を、市民にもっとアピールしてほしい。
- ・個人情報がある程度開示してほしい。

よりよい街にするために、もっと必要だと思うこと／あったらいいなと思うこと

⑥ 地域で話しあいや活動ができる拠点を確保したい

【具体的な課題】

- ・自治会単位での集会所などの拠点。気楽に集まる場所がたくさん（地域ごとに）あればいいなと思う。
- ・集会所が少ないので「空き家」を利用して、集会所にしたい（我家のまわりにも、独居老人が亡くなられて空き家が多い）。
- ・何時でも、自由に使える場（集会所の制約が多い）。

よりよい街にするために、もっと必要だと思うこと／あったらいいなと思うこと

⑦ 芦屋市内の移動（交通・道路など）をスムーズにしたい

【具体的な課題】

- ・主要駅（JR・阪急・阪神）周辺のバリアフリー化。
- ・車いすの散歩道。
- ・自転車専用道路があればよい。
- ・バスルートがなく、福祉センターまでのバス利用も困難なので、バスを通してほしい。
- ・ルナホールは車いす用席が4階にあり、災害でエレベーターが止まった時、誰がどんな方法で助けてくれるか不安が大きく、ホールが使用出来ない。
- ・高齢者・障がい者のためにベンチをたくさん。

よりよい街にするために、もっと必要だと思うこと／あったらいいなと思うこと

⑧ 芦屋の自然や文化などを地域福祉にもっと生かしたい

【具体的な課題】

- ・山・川・海など、「自然」を活かして世代を超えて集まれる場所。
- ・例えば、音楽や文学イベントなどを通じて「文化都市」の歴史、芦屋の良さを広げていく。
- ・子どもたちに伝承する芦屋の未来遺産を、市民で選ぼう。
- ・芦屋めぐり（芦屋ハトバス）。「街路樹」の名所などの場所をピックアップし、そこを巡るミニツアー。
- ・国際文化住宅都市を活かす。
- ・福祉センターをふくめ、文化ゾーンを本物に（せっかくの構想が中途半端だから）。
- ・街中の道路にヒート防止塗料を使用して、街全体の温度（夏期）を下げる。
- ・街路樹の整備。
- ・芦屋川の水生生物のレクチャー。
- ・人や情報が交流する機会と場所が出来たらいいな。
- ・犬仲間を活かす。

これらの8つのなかから、市民会議のなかで「優先」して議論をすすめていく課題を、メンバーの投票によって5つ選びました。「優先」を考えるうえでは「課題が重要だ」ということと「解決できる可能性が高い」ということなどの基準がありますが、ここでは「課題が重要だ」ということを重視して選びました。

芦屋市の地域福祉の課題(よりよい街にするためにもっと必要だと思うこと/あったらいいなと思うこと)	投票結果(※)				
	赤	黄	緑	合計	順位
①「市民と市民」/「市民と行政」との協働をもっとすすめたい	4	3	3	21点	3位
②地域の住民や団体等のつながりをもっと強くしたい	4	4	3	23点	2位
③地域福祉活動、ボランティア活動の担い手を増やしたい	1	6	1	16点	4位
④地域生活での困りごとを支援するサービスや活動を充実したい	3	1	1	12点	6位
⑤「行政」/「地域」/「個人」の情報をもっと生かしたい	5	4	2	25点	1位
⑥地域で話しあいや活動ができる拠点を確保したい	2	3	4	16点	4位
⑦芦屋市内の移動(交通・道路など)をスムーズにしたい	1	0	5	8点	7位
⑧芦屋の自然や文化などを地域福祉にもっと生かしたい	1	0	2	5点	8位

(※)「赤」3点、「黄」2点、「緑」1点として、合計点で順位を決定しました。

集計の結果、上位の5つは「⑤情報を生かす」、「②つながりを強くする」、「①協働をすすめる」、「③担い手を増やす」、「⑥拠点を確保する」となりました。やはり、実際に地域で活動しているメンバーが多いことを反映し、活動をすすめていくうえで感じている課題の優先度が高くなっています。

2. 課題の原因と、解決していくためのヒント

市民会議として議論を深めていく課題を決めるための投票の結果は、「⑤情報を生かす」、「②つながりを強くする」、「①協働をすすめる」、「③担い手を増やす」、「⑥拠点を確保する」が上位5つとなりました。

しかし、この結果をふまえてメンバーで意見交換を行った結果、「④困りごとを支援する」はまさに地域福祉として対応していくべき課題であり、かつ、最重要課題（赤）として選んだ人が3人と相対的に多いことから、「③担い手を増やす」うえでの目的として、セットで検討していくことにしました。

また、「⑦移動をスムーズにする」は「④困りごとを支援する」の具体的な内容として考え、「⑧自然や文化を生かす」は、地域の資源として、各課題の解決と関連づけて考えていくことにしました。

これらの課題について、5つのグループに分かれて、「マインド・マッピング」という手法で、課題の「原因」をより下げていきました。まず思いつく「第1段階の原因」をあげ、さらにそれらを引き起こしている「第2・第3の原因」を考えていくと、いろいろな原因が関係しあって問題が起こっていることなどが整理されてきました。あわせて、課題を解決していくためにどういう取り組みが必要なのかも見えてきました。

時間的な制約のため、すべての課題について細かな検討はできませんでしたが、それぞれの課題についてつぎのような意見が出されました。この話しあいでは、個々の原因を正確に検証するというより、地域の活動を日常的に担っているメンバーが感じていることを率直に出しあうこと、その意見を整理し、課題を乗り越えるために自分たちの今後の活動に求められるものを探ることが重視されました。

「① なぜ、市民と市民／市民と行政の協働は深まらないのか」の原因とヒント

第1段階の原因	第2・第3段階の原因	解決のヒント
職員にボランティア精神がない	職員にやる気がない	⇒イベントやお祭り ⇒ペットの良さ
職員に指導力がない	職員教育が徹底されていない	
行政の腰が引けている	市内居住の職員が3割しかない	
協働の経験が少ない		
苦情型の市民が多い		
市民の行動が弱い	職員の協力が不足している	
近隣の間人間関係が薄い	自己中心的な人が多い	
	権利と義務が自覚されていない	
議論することが苦手		

「② なぜ、地域のつながりは強くならないのか」の原因とヒント

第1段階の原因	第2・第3段階の原因	解決のヒント
市役所や自治会の情報が伝わらない		⇒マンションの人に情報を伝える
集まる場所がない		
リーダーがいない		
各団体の情報交換ができていない		
地域に関心がない人が増えている	他のことで忙しい	
	面倒くさい	
	生活が自己完結していて困らない	
	一緒にすることの楽しさを知らない	
	新住民は地域に関心がない	
住民の生活様式が違う	旧住民と新住民が混在している	
	マンションが多い	

「③ なぜ、地域活動・ボランティア活動の担い手が育たないのか」

「④ なぜ、地域生活の困りごとが解決できないのか」の原因とヒント

第1段階の原因	第2・第3段階の原因	解決のヒント
自分から「助けて」と言えない	気軽に話せる友人・知人がいない	⇒隣近所のコミュニケーションを充実
	どこに話せばよいかわからない	⇒子どもの頃から発信する力をつける
	解決する気がない	
人と人のつながりが少なくなった	ちょっとしたきっかけがあれば…	⇒地域の子どもに大人がもっと関わる
情報がキャッチできない		⇒情報を世代別に分けて提供する
してもらって当たり前と思っている		⇒虐待対応は素早くできている
困りごとの内容による		

「⑤ なぜ、行政・地域・個人の情報を生かすことができないのか」の原因とヒント

第1段階の原因	第2・第3段階の原因	解決のヒント
必要な情報が見つからない	情報が多すぎる ⇒誰に対する情報かがわからない	⇒情報の仕分け・項目分けを行う
情報を探すのに時間がかかる	情報を伝える方法が下手	⇒市民の関心を引く出し方を考える ⇒いろいろな場所に情報誌を置く
	⇒情報の出し方が画一的	
	⇒情報を出すルートが限られている	
情報があっても読めない人がいる		⇒伝達するボランティアをつくる
情報があっても読まない人がいる	身近でないことへの関心が薄い	⇒情報を知る意識を高める
地域間のヨコのつながりが薄い		⇒班の活動
個人情報の壁がある	法律が壁になっている	⇒自力で集める
	本人・家族の意識も壁になっている	

「⑥ なぜ、地域で話し合いや活動ができる拠点が少ないのか」の原因とヒント

第1段階の原因	第2・第3段階の原因	解決のヒント
高齢者の活動等のニーズが増えた	大人と子どもの活動を分けすぎる	⇒行政がニーズに応じて変化する
各町に集会所がない	物理的に場所がない	
集会所に代わるものもない	住宅事業者等が必要性を感じない ----- 空家を提供してくれる人がいない ⇒行政が動いてくれない	⇒福祉や地域への関心を高める ⇒行政と地域の話し合いを行う
地域での話し合いが少ない	地域住民のふれあいが少ない ⇒ボランティアができる人が少ない	

3. 課題を解決していくために、わたしたちができること・したいこと

芦屋市の地域福祉計画の課題と原因が見えてきたところで、そうした現状を変えていくためにメンバーが「できること」や「したいこと」を、「KJ法」という手法で出しあい、整理していきました。もちろん、課題を解決するには多くの人々の関わりが必要ですが、「市民会議」ですので、まず、メンバーがひとりの市民として「自分ができること」を考え、そのうえで、それをすすめるうえで地域の人々や団体、行政などに協力してほしいことなどを、後で考えていくことにしました。

この話しあいは、メンバーの日程の都合で3つのテーマについて行い、限られた時間のなかでも、つぎのようなさまざまなアイデアが出されました。

「② 地域の住民や団体等のつながりをもっと強くしたい」 そのために、わたしたちができること・したいこと

○現状を知る

- ・現状を把握するためにアンケート調査を行う
- ・共通に取り組めるテーマを探るために、地域の「困りごと」を募集する
- ・「困っていること・してほしいこと」を知ってもらうために話しあう場をつくる

○みんなに知ってもらう

- ・地域の課題に関心をもってもらうために、情報を伝える
- ・「住民どうしのつながりがなぜ必要なのか」を知ってもらう
- ・一緒に活動する楽しさを知ってもらう
- ・活動内容を書いたポケットティッシュを各世帯に配付する
- ・認知症や精神障がいを理解してもらうための機会（講習会など）を開く

○顔の見える関係をつくる

【イベントなどを行う】

- ・団体（自治会、老人会、子ども会など）が共同で行う活動を増やす（一斉清掃、ハロウィン、もちつき、バーベキューなど）
- ・小さい単位でのつながりを深めるために、昼食会や茶話会などを開く
- ・昔の井戸端会議のように、通りがかりの人も巻き込める場を企画する

【あいさつや声かけを行う】

- ・気持ちをひとつにするために、声かけ運動を行う（子どもにも笑顔で声をかける）
- ・犬の散歩のときにあいさつや声かけをする

【担い手を増やす】

- ・若いリーダーを養成するために、役割や機会をつくる（地域に居場所をつくる）
- ・人生経験を活かして、講座をしてもらう
- ・イベントに顔を出して、顔つなぎをする

【拠点をつくる】

- ・集まり（話しあい）を行うために、空き家を買収する



○よりつながるために

- ・自治会、老人会、子ども会、民生委員がひとつになる（まとまって行動する）
- ・団体のメンバーが代わったら、自治会に連絡する
- ・新旧の住民の交流会を開く

「③ 地域福祉活動、ボランティア活動の担い手を増やしたい」

「④ 地域生活での困りごとを支援するサービスや活動を充実したい」

そのために、わたしたちができること・したいこと

○Hello（行ってらっしゃい・お帰りなさい）Project

- ・地域との関わりをもつために、あいさつをする
- ・地域の子どもたちと交流を図るために、あいさつ運動を行う（子どもたちがあいさつ上手になるよう、大人の方から声かけをする）
- ・いじめをなくすためのコミュニケーション講座を親子に行う
- ・つながりをもつために、「ノー」と言うことも大事にする

○ご縁がありますようにプロジェクト

- ・送り手と受け手の思いをつなぐ
- ・広報を読みやすくする（対象別に色分けするなど）
- ・「ほしい人」と「あげたい人をつなぐために、情報を集め、見られる拠点をつくる
- ・子どもの「感情解放」のためのプログラムを集めて、求めている人に提供する

○リサイクルはどこまでもプロジェクト

- ・介護用品を活用する
- ・不要品を活かすために（不要品はないか）声かけをする

○外に出る出るプロジェクト

- ・情報を得るためにいろいろな人との出会いを大切にする（焼き鳥屋で大将と話す）
- ・コミュニケーションづくりのために、気軽に集える場所をつくる
- ・子どもの居場所のために、庭を開放する
- ・地域との関わりをもつために、地域のイベントに参加する
- ・避難訓練などを、大人も子どもも混ぜて行う

○芦屋ベンチプロジェクト

- ・あしや温泉と福祉センターの間のエントランスを気軽に使うためにベンチを置く
- ・コミュニケーションづくりのために、街路樹の下にベンチを置く
- ・外出しやすくするために、自宅と駅の間（市内のあちこち）にベンチを置く
- ・外出して、人とつながるよう、ベンチMAPをつくる
- ・プロジェクトをすすめるために、ベンチのデザイン・寄付・広告を募る

「⑤「行政」 / 「地域」 / 「個人」の情報をもっと活かしたい」
そのために、わたしたちができること・したいこと

○行政の情報を整理して伝える

【情報を整理する】

- ・情報の利用者が参加して議論する
- ・情報の重要度を決める

【情報を伝える】

《人を介して伝える》

- ・情報を口コミで伝える人を増やしていく
- ・新聞や広報を読むボランティアをつくる

《ITを活用して伝える》

- ・インターネットで情報共有できるよう、パソコン講座を行う
- ・ソーシャルネットワークシステムを活用してコミュニティをつくる

○個人情報を活用する

【個人情報を活用する目的を理解してもらう】

- ・個人情報をつかむ目的を説明する
- ・自治会は行政の下請け機関ではないことを知ってもらう
- ・個々の情報の重要性を見極める

【情報を集める】

- ・個人情報の提供についての意思を確認するためのアンケートを行う
- ・国勢調査を活用する（情報提供の可否を訊く）
- ・緊急時に個人情報を伝えるためのカードをつくる
- ・新聞などがたまっていたら、配達員に連絡してもらう
- ・自治会や地域の団体など（老人会・子ども会・コミスク・民生委員・福祉推進委員）の力を活かして情報を集める



○情報を集めることを通じて団体などをPRし、活動を活性化する

- ・地域の人たちの顔が見えるように、自治会活動を活発にする
- ・若い人の参加をすすめるように、子どもが喜ぶ活動を行う
- ・自治会会員以外にも情報を伝える
- ・自治会のホームページをつくる
- ・行政が自治会の活動をPRする
- ・自治会の「自慢大会」を行う

4. 具体的提案「わたしたちがこれからやりたいこと」

芦屋市の地域福祉計画の課題と、それらを解決していくための取り組みの足がかりは見えてきました。あとはそれをどう具体化していくかであり、それを話しあうのが、まさにこれからの地域福祉計画づくりのプロセスです。そのための策定委員会や検討委員会（検討部会）での議論に先だって、市民会議の委員として「わたしたちがこれからやりたいこと」を4つのグループに分かれて具体的に考え、提案A・B・C・Dとしてまとめました。

これらは、具体的な議論を重ねて企画を固めてきましたが、市民会議の各グループのメンバーだけでできるわけではありません。しかし、課題を整理していくなから引き出されてきた取り組みですので、芦屋の地域福祉をすすめていくうえでポイントとなるものであり、市民参加ですすめる「検討委員会（検討部会）」などを通じて呼びかけながら、リーディングプロジェクト的に推進していくことが望まれます。

提案A 「協働を広げていくための地道な取り組み」

「①「市民と市民」／「市民と行政」との協働をもっと進めたい」
を実現するための具体的取り組みとして

《課題についての認識》

- ・今まで、市民と市民、市民と行政の関係について、私たちもあまり考えたことがありませんでした。しかしここ数年、「市民参画」や「協働」という言葉が言われだしています。
- ・今までは、日常生活で困ったことがあると、行政に要望したり文句を言いに行くこと（「苦情」）ことがほとんどだったということは、否めないと思います。しかし、われわれ市民も、それだけではダメだと考えました。
- ・近隣の関係が希薄になっていますが、まず市民と市民がつながりをもち、町内会的なところでも市全体でもいいので「自分ができることやしたいこと」を、少しでもいいから具体的にやり、お互い協働していくことが非常に重要です。
- ・市民と行政（職員）の協働については、われわれも職員もまだ不慣れ面がありますが、今までのように苦情型だけではダメで、市民がやりたいことに職員を巻き込み、市民が初めて経験するような部分は、職員の力を借りてレベルアップしていくようなことが必要です。

《わたしたちが取り組んでいきたいこと》

【まず、芦屋のまちをよく知り、愛着をもつように呼びかけていきます。】

- ・市民と市民の協働については、つながりが希薄になっているなかで、まず「芦屋に対する愛着」が重要になってきます。芦屋のまちをよく知り、「文化を守りたい」、「まちをよくしたい」などの思いをもつことが大事です。

【まちへの愛着を活かして「ボランティア精神」を生み出すために、イベントを企画し、成功体験を共有していきます。】

- ・そして、ボランティア精神をどう生み出していくかです。このグループのメンバーの場合

は、震災のときに助けられたことや子どもが喜ぶ顔を見ることから、そうした気持ちが出ています。それを人に伝えることで新たに生み出していくよう、芦屋への愛着やボランティア精神の喚起を盛り込んだイベントを企画し、成功体験を共有することで、つながりがより深くなっていくのではないかとということが、私たちのひとつの結論です。これは非常に地道ですが、「地道でもしっかりやっていく」ことが大事なコンセプトだと思います。

【みんながイベントに参加し、楽しい思い出にしていくよう、役割をつくったり、声かけなどを行っていきます。】

- ・せっかく良いイベントをやっても、後から「なぜ声をかけてくれなかったのか」と言われることがありますので、その人の役割をつくったり直接声をかけるなど、楽しい思い出にしていく工夫も必要です。

【市民と行政の協働をすすめるために、一緒に考え、苦楽をともにしながら問題に取り組んでいくよう、呼びかけていきます。】

- ・市民と行政（職員）の協働では、市民と職員が協働について一緒に考えていくことが大事なのではないかと考えました。これも地道ですが、この市民会議で知恵を絞って考えたように苦楽をともにすることがいちばん大事で、自分たちでやって問題を共有することで関係がより深くなり、つながっていくのではないかと考えました。

提案B 『ひとり一役運動』

「② 地域の住民や団体等のつながりをもっと強くしたい」
を実現するための具体的な取り組みとして

《課題についての認識》

【まず、どうつながりたいのか】

- ・いろいろな組織をもっと横につなぎたいです。
- ・行政のタテ割りに不平不満を言うばかりでなく、横の関係を築こうではありませんか。
- ・各地域の情報をもっと共有できないでしょうか。
- ・市民会議を「この場限り」にせず、人的ネットワークを活かしていきましょう。

【では、本当につながっていないのでしょうか】

- ・一定のつながり（世代ごとのつながり、子どもの親たち、趣味の集まり、犬の仲間、当事者の集まりなど）はあります。
- ・しかし、そのつながりでは、家にこもっている人やひとりで悩んでいる人を引っ張り出す方法が見当たらず、つながりづくりから抜け落ちてしまいますので、「地域での（地域に根ざした）つながり」が必要です。

【なぜ、つながらないのかを考えてみると】

- ・第1段階の原因として、「地域について関心がない人が増えている」、「住民の生活様式がちがう」、「旧住民と新住民が混在している」、「マンションが多い」、「リーダーがいない」、「集まる場所がない」、「情報が伝わっていない」が出てきました。
- ・そのなかで、多くの人があげた「地域について関心がない」という原因について深めてい

くと、「めんどくさい」、「他のことで忙しい（面倒くさい人もたいていこう言いますが）」、「生活が自己完結している」、「困っていない」、「みんなでいっしょにすることの楽しさを知らない」という原因が出てきました。

【こうした現状を変えるために、わたしたちに何ができるか】

- ・まず「現状を知る」ことです。そのために、アンケート調査や困りごとを話しあう場をつくって地域の人に聞きます。
- ・そして「知ってもらおう」ことです。関心をもってもらうために、地域での活動の情報をこまめに伝えたり、いっしょに活動することの楽しさを知ってもらったり、障がい者の理解につながるよう啓発の機会をもちます。
- ・そのうえで「顔が見える関係づくり」として、声かけ、共同でのイベント、子ども会を卒業した人が自治会活動に参加できるしかけ、若いリーダーを養成するための役割や機会づくり、地域の居場所づくりなどができます。

《わたしたちが取り組んでいきたいこと》

【あと一押しで参加できそうな人を対象にして、「ひとり一役運動」を展開します。】

- ・つながっていない人には、「①つながりたくない人」、「②つながることができない人」、「③あと一押しすれば参加しそうな人」の3タイプがあると考えました。そこで、今回はまず、「③あと一押しすれば参加しそうな人」をターゲットにして考えました。
- ・私たちの取り組みの《タイトル》は「ひとり一役運動」です。《ねらい》は顔が見える関係づくりで、町内会等の活動に参加しそうな人（特に若い人）を《対象》とします。

【「それくらいならできる」という役割をたくさんつくり、声をかけていきます。】

- ・この取り組みで《すること》としては、声かけ・ヒアリング・アンケートをしながら（相手によっては半ば強制的に引っ張り込むという手段も使いつつ）「それくらいならできる」という役割を、地域のなかにたくさんつくっていくことが大事だと思っています。
- ・そのときに《あったらうれしい応援》は、「住民全員のボランティア活動」、「ヒアリングやアンケートなど、地域の人だけではなかなかできないことのサポート」、「拠点として（立派でなくてもいいので）すぐに集まれる場所」、「たくさんつくった役割をまとめられるリーダー」です。

【《希望的まとめ》→ 地域のつながりを強くすることにより、困ったときにたすけあえる環境ができます。そのためには、地域住民一人ひとりの気持ちが大切です。】

- ・地域のつながりを強くすることにより、現在困っている人や自分が困ったときなどに、たすけあえる環境ができます。そのためには、地域住民一人ひとりの気持ちが大切であり、熱心に活動されている人々の気持ちが伝わればよいと思います。
- ・そのために、集まる拠点の整備や活動の中心となる人材の育成など、行政の協力が必要なこともあります。

【《希望的“宣言”》→ わたしたちは「みんなつながれ作戦」に挑戦します。】

- ・私たちは「みんなつながれ作戦」に挑戦します。キーワードは、①コミュニティ再生と、②新しい公共です。

提案C 『芦屋ベンチプロジェクト』

- 「③ 地域福祉活動、ボランティア活動の担い手を増やしたい／
④ 地域生活での困り事を支援するサービスや活動を充実したい」
を実現するための具体的な取り組みとして

《課題についての認識》

【なぜ、わたしたちがこのグループに集まったのか】

- ・認知症の人の家族会の活動をしているメンバーは、出かけるときに不自由な思いや危ない思いをしているのを見て、そうではない状況をつくりたいと思っていました。また、障がい者の活動をしているメンバーは、外出時に支障となっているものが少しでも快適にできればいいと思っていました。そこで、具体的な困りごととしての「環境の整備」について考えようと、このグループに入りました。
- ・しかし、マインド・マッピングを行うなかで、「困りごとの解決がなぜできないのか」という「心の問題」に、関心が移っていきました。

【「困りごと」を解決するために、わたしたちができること】

- ・《困りごとが解決できない原因》として、「自分で発信できない」、「伝える友人・知人がいない」、「してもらってあたりまえと思ってコミュニケーションを取らない」、「困りごとを解決するための情報が届いていない」、「解決する気がない」、「気軽に人と出会う場がない」ということが出てきました。
- ・そして《それらを解決する手法として》、「情報がきちんと届くように広報を対象別にコーナー化し、いつも同じところに載せたり色分けをする」ことや、「大人から子どもに声をかけたり、あいさつをする」ことなどが出てきました。

《わたしたちが取り組んでいきたいこと》

【困りごとを解決する取り組みとして、5つの具体的なプロジェクトを考えていきます。】

- ・困りごとを解決するための具体的なプロジェクトとして、『①Hello project』（「いってらっしゃい」、「おかえりなさい」のあいさつを私たちの方からする）、『②ご縁がありますようにプロジェクト』、『③リサイクルはどこまでもプロジェクト』（子どもの洋服だけでなく、介護用品などでもできるよう発信する）、『④外に出ろ！出ろ！プロジェクト』（さっと集まれる場所をつくったり、イベントに参加する）、そして、私たちのメインである『⑤芦屋ベンチプロジェクト』が出てきました。

【それらのなかで、「だれもが座れて、気軽に話ができるベンチをみんなでたくさんつくり、広報していく『芦屋ベンチプロジェクト』を、まず具体的にすすめていきます。】

- ・このプロジェクトの《ねらい》は、「重い荷物をもっている人や高齢者、障がい者などがちょっと座れるベンチを、芦屋のまちにたくさんつくり、座りましょう」ということです。そして、芦屋でつくられているいろいろなマップを参考にして「ベンチがここにありますよMAP」をつくりたいと思います。
- ・プランの《タイトル》は『出会いベンチプロジェクト～出かけよう！つながろう！～』です。だれもが、だれとでも気軽に話せる芦屋をめざすために、障がい者や認知症の人など

だけではなく、芦屋のすべての人が座れるベンチをつくりたいと思います。

【ベンチについての調査を行い、多くの人の関心や協力を集めながら、ベンチを増やしていきます。】

- ・プロジェクトで《やること》は、まず、町別にヒアリングしてベンチが必要なところや設置可能なところを把握し、それをもとに行政に相談します。関心を集めるためにベンチのデザインや描きたい人を公募して選考し、寄付や広告も募ります。そして、ベンチMAPを作成し、広報活動を行います。
- ・私たちも芦屋のベンチをリサーチしてきました。写真を撮ってきたのでご覧ください。ベンチはみなさんの声を聞いて増やしていきたいと思います。

【「ベンチにまつわる楽しい企画」も考えて、継続的な取り組みにしていきます。】

- ・このプロジェクトはメンテナンスが必要ですので、「その後の企画」として、ベンチの入った風景の絵画コンテスト、ベンチから始まった物語（ベンチがとりもつご縁）エッセイコンテスト、「ベンチ」を入れた俳句コンクールなど、ベンチにまつわる楽しい企画を考えて、続けたいと思います。

提案D 『市民参加の情報紙づくり』

「⑤「行政」／「地域」／「個人」の情報をもっと生かしたい」
を実現するための具体的な取り組みとして

《課題についての認識》

- ・「情報」について議論してきたなかで、いちばんの問題は「必要な情報がみつけにくく、探しにくい」ということです。情報は（特に行政からは）あふれるほど出されていますが、うまく探しきれないことが問題なのです。
- ・それは、「行政と市民の距離が遠い」ところに基本的な問題があり、行政の目線で情報をつくっているからだ、という認識に立ちました。
- ・議論のなかで、「個人情報の開示」、「データの使い方のマニュアル」、「ニーズのレベル」といったキーワードが出てきました。それらをまとめて、ひとつのストーリー（プロジェクト）をつくりました。

《わたしたちが取り組んでいきたいこと》

【市民が参加し、市民目線の「情報紙」をつくります。】

- ・「市民が必要な情報を見つけやすくする」ために、『市民が参加したかたちの情報紙を作成する』ことをめざします。行政がつくる「広報紙」ではなく「情報紙」だというのがポイントです。
- ・情報紙の内容については、まだ具体的にはなっていませんが、「市民の生命や安全」に関わることを優先すべきではないかと考えました。
- ・また、情報が探しやすいように、家電製品の取扱説明書の「困ったときに」の欄のような「Q&A方式」にしてはどうかと考えています。

【市民目線の情報を盛り込むために、ニーズを吸い上げるしくみづくりをすすめます。】

- ・この「情報紙」は、“市民目線の情報”を盛り込むことを目標にします。そのための具体的な方法として、市民からの要望を吸い上げるためのしくみづくりを、地域に密着した自治会、民生委員、子ども会、コムスク、福祉推進委員などが関わっているコミュニティの力を活用してつくります。
- ・また、こうした取り組みのその副次的な効果として、それぞれの団体が連携することで横のつながりが強くなると期待しています。

【行政が行っている情報の把握や発信の方法を勉強し、取り組みに活かしていきます。】

- ・もうひとつの方法として、市の広報紙づくりや会議にできるだけ参加させてもらい、行政はどういう情報を把握し、発信しようとしているのかを勉強したいと思います。

各グループからの提案に対して、専門委員の先生方から、つぎのようなご意見をいただきました。これらのアドバイスもふまえて、取り組みをすすめていきたいと思えます

- ・「市民の協働」において、どのような「市民」をイメージしていくのか（隣にいる人か、まだ出会えていない人か）も、第2次計画づくりのなかで検討したい。
- ・「つながり」を考えるうえで、事業者や学校なども含めて考えると広がりができる。また、「当事者も担い手になる」という視点も忘れずに、地域でつながっていければよい。
- ・実は市民もタテ割りで、対象別や事業別の集まりになってしまいがちなので、「活動や事業を行うことを通じて、団体のつながりを強くする」ことは、大事な視点である。
- ・「地域でつながること」にどういう意味があるのか、つまり、「若者を地域につなぐ意味」や「新しい住民に担ってもらう役割」は何かなどを考え、ターゲットを絞った方がよい。
- ・「つながり」の問題は「(世代などが) 違う人と話をする力」が弱くなり「コミュニケーション」が難しくなったために起きており、「ベンチMAP」のように、市民が特技を生かし、楽しみながらできるコミュニケーションの方法を開発していかないと、つながらない。
- ・行政も市民とのつながり方を変えて、パートナーシップで役割分担していかないといけない。そのために重要なのは何よりも情報公開であり、要求に対する情報開示だけでなく、行政の方から問題をわかりやすく公開して市民と共有できれば、協力する人が出てくる。
- ・これまで市民は行政に「要望書」を出すだけで、やるかどうかの判断は行政が行っていたが、今回の市民会議では「要望仕分け」をして提案したので、行政も真剣に受け止めざるを得ない。また、市民には、提案がきちんと取り入れられるかを見守る責任もある。
- ・「地域に密着した生活感」からよいアイデアが出ているので、発信していけるとよい。
- ・忙しくて「問題が起こってから考える」人が多いので、何かが起こったときに必要な情報が得られるような「わかりやすい情報紙」は大切である。
- ・「全国校区・小地域福祉活動サミット」には全国から1,500人ぐらいが集まり“目から鱗”のすばらしい活動を交流している。交流することで「やはり同じ思いの人がいた」、「やってよかった」とつながりあっているのだから、参加してみたい。

5. 「みんなで話しあう場」を広げてくために必要なこと

市民会議では、メンバーのみなさんに、毎回「ふりかえりシート」を記入していただきました。シートの内容は、本日の会議で「最も印象に残ったこと」、「嬉しかったこと」、「がっかりしたこと」、「地域福祉について考えたこと」、「運営について気がついたこと」、「その他」の6点です。毎回同じ問いかけをすることで、メンバーの気持ちの変化も知りたいと考えました。

メンバーの意見から、特に、市民会議のような「地域福祉をすすめるうえでの話しあいの場」について、つぎのような課題が見えてきました。

【①さまざまな立場の市民が自由に話しあえる場は非常に重要であり、今後も継続して行っていくことが望まれます。】

《ふりかえりシートの意見から》

- ・「多くの市民が真剣に福祉のことを考えていることがわかった」
- ・「新しい方々と会え、活発な意見交換ができてよかった」
- ・「地域の課題を解決するための、具体的な取り組みについて考えることができた」
- ・「みんなで提案をまとめることができて、達成感があつた」

第1回目の会議から、地域福祉に関わる多くの人たちと出会い、お互いの活動や思いを共有しながら意見が変わる機会がもてたことを、多くの方が嬉しく感じてくださいました。ふだんからいっしょに活動している仲間はいても、多くの市民が地域福祉に関わっていることを実感できることは、活動をすすめていくうえでも大きな力になるものと思われま

す。また、課題を抽出する段階から、それらを解決していくための具体的な話しあいをすすめていくなかで、話しあいを重ねていくことの力や達成感を実感していただいたこともうかがえます。

多くのつながりをつくり、実践に向けた思いを紡いできた今回の市民会議を「この場限り」にするのは、とてももったいないことです。第2次地域福祉計画づくりはもちろん、計画に基づいて地域福祉をすすめていくうえでも、みんなが思いを持ち寄り、共有しながら、役割を分担し、連携して取り組みをすすめていくよう、今後も継続して行っていくことが望まれます。

【②身近なところで、地域に根ざした話しあいができる場（地域版の市民会議）を、「地域福祉推進協議会」などとも関連づけてすすめていくことが期待されます。】

《ふりかえりシートの意見から》

- ・「一人ひとりが身近なことに興味をもてば、住みよいまちになるのではないか」
- ・「それぞれの地域で活動していかないといけない」
- ・「自治会、子ども会、民生委員、福祉推進委員などの、ヨコのつながりづくりが重要」

市民会議では、メンバーが生活したり、活動している地域の思い浮かべながらも、基本的

には「芦屋市全域」を地域として考えました。多くの地域で共通する課題や活動をすすめていくうえでの悩みがあることが共有され、芦屋市の地域福祉の課題が見えてきました。

一方で、地域によって課題や資源に違いがあることも明らかになりました。市民会議では「つながり」が重要なキーワードのひとつとなっていますが、「何のために、どういうつながりが必要なのか」を考えながら、きめ細かく対応していくうえでは、それぞれの地域で、さらに具体的な話しあいを行っていくことも必要になってきます。また、そうした取り組みは（この市民会議が多様な人たちのつながりの場となったように）、地域の人々や団体などのつながりをいっそう強めることにもなります。

芦屋市では「地域福祉推進協議会（地域発信型ネットワーク）」が、平成22年度から本格的に動き出しました。そのなかで、中学校区ごとの「ミニ地域会議」や小学校区ごとの「小地域ブロック連絡会」もすすめられており、これらとも関連づけながら、今回の市民会議の成果も活かして、多くの人たちが参加できる話しあいの場が広がっていくことが期待されます。

【③市民や団体等の話しあいや協働を支援するしくみを、いっそう充実していくことが期待されます。

《ふりかえりシートの意見から》

- ・「話しあいの方法（マインド・マッピング、KJ法など）を学べてよかった」
- ・「先生方のコメントが的確だった」、「ほめられたり、教えられたりして嬉しかった」
- ・「プログラムがよく考えられていた」、「ファシリテーションがよかった」

今回の市民会議は、また、専門委員（学識者）の助言をいただきながら、ファシリテーションや地域福祉計画づくりの専門家がサポーターとして参加し、事務局とともに会議の企画・運営をすすめてきました。それらのメンバーのノウハウを取り入れたプログラムや、メンバーの気持ちを引き出す会議の進行が、多くの成果を得るひとつの要因になったといえます。

しかし、「市民会議」は参加する市民のみなさんが主人公であり、本来は運営についても主体となってすすめていくことが望まれます。上記のような話しあいを行っていくうえでは、企画・運営からの協働がすすめられるようにしていくことが重要です。

そのためにも、市民の主体性を引き出したり、側面的に支援していくことも含めた専門的な支援（コミュニティワーク）の力が不可欠です。地域福祉の推進機関である社会福祉協議会や、市民活動への支援を行う市民活動センターなどの専門機関とも連携していくなど、支援のしくみをいっそう充実していくよう、あわせてすすめていくことが期待されます。

6. 市民意識調査で確認してほしいこと

第2次地域福祉計画づくりでは、市民会議に続く第二弾の市民参加の取り組みとして「市民意識調査」が実施されることになっています。

地域福祉に強い関心を持ち人たちが集まった市民会議に対して、市民意識調査では、多様な意識を持ち、さまざまな生活を送っている市民の幅広い意見を聞くことができます。

市民会議で話しあってきたことやプロセスなどを振り返りながら、市民意識調査の調査項目に反映して確認してほしいことを整理しました。

【①市民会議でまとめた課題と、その優先度について、多くの市民のみなさんはどのように感じているのか？】

市民会議では、芦屋市の地域福祉をすすめていくうえで、「協働をすすめる」、「つながりを強める」、「担い手を増やす」、「困りごとを支援する」、「情報を生かす」、「拠点を確保する」、「移動をスムーズにする」、「自然や文化を生かす」と、おおむね8つに整理される課題があると考えました。さらに、これらのなかで優先的に取り組むべきものとして「情報」、「つながり」、「協働」、「担い手」、「拠点」をあげました。

計画づくりをすすめていくうえでは、「何に優先的に取り組んでくか」を決めていくことは非常に重要なことであり、多くの市民がどのように感じているかを聞いたうえで、あらためて検討していくことが望まれます。

【②市民会議の委員が「市民として取り組みたい」と感じたことについて、市民のみなさんはどのように感じているのか？】

今回の市民会議の大きな成果のひとつが、最終回に行った「わたしたちが取り組んでいきたいこと」の具体的な提案です。グループに分かれて具体的な検討を行ってきましたので、地域福祉を先導していく取り組みとして、ぜひ実現していきたいと思いますが、もちろん市民会議のメンバーだけでできるわけではありません。

これらの取り組みについて、市民の関心を高めていくうえでも、提案がどのように受け止められているか、もっとよいアイデアはないかなどを聞き、具体的な推進につないでいきたいと考えます。

【③市民のみなさんが地域で生活していくうえでの「困りごと」には、どのようなことがあるのか？】

市民会議のメンバーは地域で活動を行っている人がほとんどだったため、どちらかといえば「担い手」としての課題への関心が集まりがちでした。しかし、活動をすすめていくうえでも、市民が日常生活のなかで抱えている困りごとを的確に把握することが重要だということが、市民会議の議論（提案）のなかでも確認されてきました。

社会がめまぐるしく変化するなかで、日常生活のなかでの困りごとは非常に多様化してきています。それらに的確に対応できる地域福祉をすすめていくうえでも、具体的な困りごとが把握していくことが必要です。

7. 市民会議を終えてのメッセージ

自主ゼミを含めて5回の市民会議を終えて、会議に参加して感じたことや今後の抱負、市や市民のみなさんに期待することなどを、メンバーのみなさんにまとめていただきました。

多くのご意見のなかに、いろいろな立場、それぞれの地域で、芦屋のまちへの愛着や地域福祉への思いをもって活動している人たちが集まって話しあうことの大切さや、今回の会議で終わらせることなく、市民の思いを第2次地域福祉計画に的確に反映し、そして主体的に市民も参加し、協働して芦屋市の地域福祉を推進していくことの必要性が謳われています。

これらのメッセージに込められた思いを胸に、つぎのステップにすすんでいきましょう。

【みなさんのメッセージを掲載させていただきました。】

初回から、時間がオーバーするほど熱心な意見交換がなされました。最初は、「〇〇であってほしい」「△△をしてほしい」というような意見が多かったのですが、回が進むうちに「それを実現するために我々に何が出来るか」を考えなければならず、グループの中で悩みながら、また“自主自主ゼミ”をするなどして、ようやく最終プレゼンにたどりつきました。各グループのプレゼンを聞かせていただいて、みなさんの芦屋にたいする熱い思いをあらためて感じました。

私は地域福祉にかかわる仕事をしておりますが、「そういう考え方もあるのか」とあらたな発見もあり、大変充実した会議でした。

ただ、この市民会議の30人のメンバーだけでは、充実した地域福祉を進めることは、できないので、メンバーの熱い思いが芦屋市民全員にひろがるように、みなさんと一緒に活動していきたいと思います。
(宮平 太さん)

市民会議に参加させていただき、とても感謝しております。ありがとうございました。

この会議に参加することが決まった当初は、3回の会議でどれだけのことが出来るのかと、不安がありましたが第1回の会議後に全てが払拭されました。

参加されている方々のパワーがすごい！すばらしい！3時間半の会議がこんなにも短く感じ、有意義に過ごすことが出来るのかと感激いたしました。

いろんな関係機関の方々や公募の方々といろんな視点から「芦屋市をより良い街にするために」意見交換をし、現状をふまえ、取り組むことを検討していきました。

私たちのグループは、「地域福祉活動、ボランティア活動の担い手を増やす／福祉サービスの充実」ということから話合いを始め、「現状を考えるために、私たちが出来ること、やりたいこと」から、具体的に「ベンチを増やしていけばもっと地域との関わりが深くなるのではないか」ということに発展いたしました。夢がいっぱい広がりとても良い話合いが出来たと思います。現実になるとうれいそうですね。

最後のプレゼンテーションの日に出席できなかったことが、大変、大変残念で悔やまれますが、市民会議に参加させていただき、いろんな方と交流を深められたことは本当に良かったと思っています。

この市民会議の中で生まれ得たことが策定委員会で反映されることを願っております。
本当にありがとうございました。(佐津間 裕美子さん)

日頃あまり深く考えたことがなかっただけに多方面の方々との話し合いは刺激にもなり広く討議できたことは有意義であった。

反面、この程度の議論で出された結論で良かったのだろうかとの不安も大きい。

1. 「地域福祉」という言葉自体が広すぎるので、この言葉に含まれるいくつかの要素を会議で討議する前に予め示してもらったほうがよかったのではないかと？
2. テーマの議論は時間が足らなかった。公式の会議では進め方の指導が中心となり、実質的な討議は自主ゼミであったと思う。先生方から個々の検討テーマに対してももう少し具体的な指導があったほうがよかったのでは？

これを受けて自主ゼミに臨めば更に掘り下げられたように思う。

3. 重要な自主ゼミは欠席者も想定してあと2回は欲しかった。
4. 自主ゼミには各テーブルで議論する際に、行政の地域福祉の現状を理解するためテーブル毎に職員を配置してもらえるとよかった。(本郷 孝さん)

段々と参加者が少なくなり、心細い思いはありましたが、ファシリテーター役の岡村さんに上手に乗せられ、芦屋の福祉について考えを広げたり、まとめたり、さらに深く考えを進め最終プレゼンテーションまで辿り着きました。

私自身にとっても、地域福祉について、いろんな角度からの意見を聞く事が出来、とても有意義な時間でした。

今後はみんなで考え、提案した案がどの様に具体化され実行されていくのか見守っていきたいと思います。

又、行政に対しては、会の最初からみんなが口にされていた活動の拠点の確保をお願いしたい。みんなで話し合ったり、活動したり、そこに行けば子供から高齢者までのさまざまな情報が得られる様な場所がほしい。そこから芦屋の地域福祉が広がっていくと思います。

(東郷 明子さん)

今回はじめて参加させていただきました。

色々な活動をされている皆様の多岐にわたる御意見や考えをきかせていただくことが出来て非常に勉強になりました。主婦という立場で生活しているとなかなかその枠から出での情報や考えをきくことが少ないですから…。

そして、こういう会議をすすめていくための手法も新たな発見でした。

今後も、民生児童委員協議会の方で勉強させていただくつもりで何かお手伝いできればと思います。

市や市民については何かひとつ市民がひとつになれるような柱というかスローガンとか…そういうものが浸透すればいいのにと 생각합니다。(目黒 清子さん)

人が“つながる”ためには働きかけ方や、工夫をすれば井戸端会議に参加し役割を持ってもらうことができるのではとは思いますが、私が活動をしていて、他人と関わるのが苦手な大人、億劫な大人と“つながるの”はとても難しいと実感しています。

気かけながら遠くから見守る（決して見放さない）。具体的につながらなくても気持ちはつながっている、という“ゆる〜い”つながり方は無いものでしょうか。

私の住む集合住宅は『回覧板』が定期的に回ってきます。10戸から15戸が1つのグループになっています。全員閲覧済みの印を見るとホッとします。

“つながり”にくい大人にならないための予防策として、子どものときから異年齢の交流が自然な形で経験できる取り組みが必要だと思います。簡単なことのように先ずは気持ちのよい“あいさつ”からでしょうか。みんなが“お互いさま”という気持ちを持つ地域であって欲しいです。
(半田 孝代さん)

芦屋に住んで36年になります。

その間、子育て、主人の母の介護、そして震災といろんな事がありましたが、常に多くの人から励まされ、支えられてやってこれたと思います。

今、無縁社会などという言葉を聞きますが、私は、人が一人では生きてはいけない、まわりの人とつながって生きていると思います。

今回の会議で、みなさんの一生懸命に話し合われている様子を見て、改めて、その思いを強くしました。

お世話いただきありがとうございます。

長い時間の会議とは思いましたが、話し合っているとアッという間でした。

(山本 弘美さん)

この市民会議は、第一回目が市役所にて、PM6：00～ということでしたので、私は仕事を持っているため、これなら参加出来ると思い、決めさせて頂いたのですが、その後、平日の午後がほとんどで、数回しか参加出来ず、大変申し訳ございませんでした。

参加させていただいた会議の中で思ったことは、地域生活での困りごとを支援するサービスや活動、そして担い手、また、より充実した日々の生活のためのサービスや活動、担い手…については歩きだしてはいるものの、本当に必要な方々のところに届いているのか？サービスを受けたくても、出かけることが出来ないお体の不自由な方々へのサービス等、ボランティア活動の担い手がどれだけ沢山必要かということです。

そうなってくると、ボランティア活動の担い手となる方々の芦屋市独自の位置付けが大切になってきます。担い手も生身の体です。安心して、空いた時間を提供し、その分、自身の先々の安心も確保出来るような、何らかのかたちを定めて行かなければ、ボランティア、ボランティアといっても気持ちは有っても、参加となれば難しいことになってくるのではと感じます。

担い手も、いつ逆の立場になるか不安を持っていて当たり前ですから、何らかの位置付けが出来ればと思いつつ書かせていただきました。
(内藤 友子さん)

市民（参加者）の関心、意識の向上に大いに貢献しただけでも、市民会議の意味はあったと思いますが、せつかく回を追うごとに盛り上がってきたみんなの気持ちが、うまくセカンドステージへと受け継がれることを望みます。

広く市民にも意見を聞いたという実績だけではなく、市民会議の報告書がなんらかの形で福祉計画に生かされた、本当に市民と行政が協働していけたと実感できる結果を期待します。

（守上 三奈子さん）

市議会に参加して、各部、分野からの素晴らしい代表の方々に接し、今まで老人クラブの中で忙しく一生懸命生活して参りましたが、いろんな方が、いろんな角度から希望されている事に気付きました。第一は地域の問題、これが土台となって声をかけ助け合い支え合って、子供達にも大人からにこにこして挨拶。又、皆が予約なし・会費なしで気軽に集まれる場所が必ず必要になってきます。豪華な建物ではなくて良い、気楽に集まり、語り合える集会所が急速にぜひ各町、地区に欲しいと願っています。空家、空地を利用すれば、必ずあります。近くの集会所は茶屋集会所になりますので、国道2号を渡らなければなりません。ぜひ近所に空地がありますので、そこに集会所を建てて頂きたいとお願い致します。老人の孤独死、子育ては、地域の細かい協力なしでは出来ないと思います。私達老人クラブは、この問題を大きく取り上げ、実践しています。老人クラブは健康、奉仕、友愛をモットーに社会に還元しなければと思っています。その為の活動だと思い、活躍しています。

いろいろお世話になりましたスタッフの方々ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

（福永 公子さん）

「地域福祉」はピンとこないが、「芦屋に住む私やあなたの幸せのため」と言い変えると、くっきりとイメージできる。テーマは「地域生活での困りごとを解決するには？」あれこれと悩んだ末、多種多様な困りごとに対する万能薬なんて無い！という結論に。そこで、身近な最小サイズの提案を。

「ここに、そこに、ベンチを設置！」

♪♪外に出て、日の光を体に浴びましょう。疲れたらベンチで休みましょう、ひと時、ベンチに座ると、街路樹の桜が、花ミズキが、紫陽花が、プラタナスや銀杏の葉が目を楽しませてくれる、見知らぬ方にだって「綺麗に咲きましたね。」と声を掛けられる、子供が走る、あの犬、なんて名前かな、買い物帰りの知人と挨拶、「今度〇〇があるよ」と耳寄り情報をキャッチ・・・??

同じ町に住む人たちとの繋がり大切さを、私たちは誰に説明されなくても知っている。それは、阪神淡路大震災の地に住んでいるから。辛い体験が私たちを繋げ、助け合って生きることを学ばせた。これは、この地域に住む者の見えない財産になっている。だから、平時には、私はベンチに腰を下ろして始まっていくような繋がりを求める。誰かの困りごとが、出会えた誰かの一言で少しずつ変わるかもしれないと、ささやかに夢見て。

（杉田 俱子さん）

参加して感じたのは、全員が身近な問題を持ち寄り、改善に向けた意見を集約、一定の方向にまとめたことである。ファシリテーターの適切なリード（多くの手法提供を含む参加型のワークショップ）が功を奏した成果だと言える。

今後の抱負は、報告を下敷きに計画案が策定された後、参加者はパブリックコメントに応じ、現場からの声をさらに反映すべきである。市と市民に期待することは、地方主権の実現を念頭に、住民は行政に依存せず互いの可能性を受け止めて、協働の関係性を確立したい。残念なのは、第1回あしや保健福祉フェア（第3回市民フェスタ共催）のシンポジウム「私たちが創る私たちの町 - 芦屋の地域福祉を考える -」にはもっと多くの住民に集まって欲しかった。

これからの展開には「コミュニティ再生」と「新しい公共」を折り込み、「みんなつながれ作戦」を宣明にしている。私は保健福祉部地域福祉課の働きを高く評価し、行政・市民同士の間そして市民と行政の協働を切望する者である。（上野 義治さん）

私事で、折角の会議、自主セミナーも県福祉課よりの委託事業担当日や、県社協での委員会等に重なり、参加出来ず、ご迷惑かけましたこと、まず、お詫び申し上げます。

今回、お二人の策定委員が選ばれたことも喜びです。この報告をぜひ第2次芦屋市地域福祉計画策定委員会で生かして頂ければより嬉しく存じます。芦屋市に住んで良かったと感じられる町に皆んな（市民）で協力できるように、これからもこのような市民参加の企画を継続下さることを願っております。ありがとうございました。（三木 弘子さん）

今回の会議で参加者の皆様から、地域福祉を考え芦屋をもっと住みやすくするための意見を聞くことが出来有意義な会議でした。

芦屋に古くからお住まいの人、新しく住まれた人、つながりを持ちたくない人、つながりを持ってない人、それぞれ生活様式の違いや考え方の違いはありますが、皆様芦屋に何らかの愛着を持っていると感じました。

意見を述べるだけで終わらないようにするには、各人が行動を起こすべきと考えます。

私の住んでいる町の自治会長は現在芦屋に住んでいません。そのためか、町内に問題がないのか分かりませんが、自治会の動きがないように思います。地域福祉について町内の皆様がどのように考え、感じておられるのか、まずそのあたりから調べ、より住みよい街にする活動をしたいと考えています。（船橋 久郎さん）

地域福祉に関する多くの課題、問題が市民レベルで議論された事は、参加した市民各々にとって、有意義な経験であったと思います。

議論された内容の具体化において、どの様な結果になったかが、多くの市民参加型の市民会議に共通して、不明な場合がほとんどで、市民が参加した事となっています。

協同化の作業は市政の具体化において、市民が参加しないと、参加した意味はないと考えます。本市民会議においても、我々の地域が豊かになるために、報告書の作成で市民が参加した事になる。という様な事にならないように望みます。（姉川 昌雄さん）

市民会議に参加して、芦屋市や様々な団体に所属されている市民の方々が、芦屋のためにいかに多くの活動をされているか、またその熱い思いを知ることができました。これらの様々なコミュニティが縦割りでつながりが弱いことに対して、情報を共有させるシステムをつくることでその連携への提案がなされていたことや、ベンチを置くという目に見えるカタチの具体的な提案がなされていたことは、大変素晴らしいことだと思いました。

今後は、提出されたアイデアをさらに発展させ、市民の皆さんにどう伝えて、実現させていくかを考えていきたいと思います。

芦屋市に対しては、このような素晴らしい取り組みを市民の皆様が実感できるよう伝えていってほしいと思います。

会議全体を通じて、様々な価値感に触れられて、大変勉強させて頂きました。

ありがとうございました。 (久武 正明さん)

「つながるのは何のためですか？」専門委員の先生の言葉が響きました。ニュースでとあるアメリカ人女性がこう言っていました。「昔はお金がなくとも幸せがあった。今はお金があったとしても苛立ちストレスが多い。」つながりがありそれが感じられた時代には幸せがすぐそこにあったのでしょうか。

幸福度アンケートの結果が世界No. 1のデンマークでさえ高齢者の多くが孤独を訴えています。昔のように高齢者がつながりの中で尊われ、小さな子供とともに生活し、生きがいや癒しを感じて安心して過せるそんな“つながりの場”がすべての人に必要に思います。

今回の第3回市民会議では各グループのプレゼンがありましたが、宣言「みんなつながれ作戦」のもとベンチプロジェクトを含めたイベントを開催し、市民情報誌でそれを発信していくと市民会議のすべての参加者がつながっていくように思いました。芦屋市のことを思う1つの大きなチームなんだと思えてきます。

私自身、市民会議に参加させて頂いて出会いや気づきがあり、協働して進んでいく元気を頂きました。ありがとうございました。 (許 和子さん)

資 料

資 料

目 次

写真で綴る市民会議（スライドショー）	32
---------------------------------	----

会議の要旨

第1回市民会議（7月10日）	40
自主ゼミ①（8月28日）	45
第2回市民会議（9月10日）	49
自主ゼミ②（10月23日）	57
第3回市民会議（12月13日）	60

ニュースレター

第1回市民会議（7月10日）	69
自主ゼミ①（8月28日）	71
第2回市民会議（9月10日）	73
自主ゼミ②（10月23日）	75
第3回市民会議（12月13日）	77



芦屋の街をとことん考える ～平成22年度芦屋市地域福祉計画 市民会議～



2010年7月10日18時
芦屋市役所に
「芦屋の街を、もっと住み良くしたい」
という40人の有志が集まった。



「地域福祉」とは、何なのか？
なぜ、参加型でやるのか？

見知った人も、初めての人もいる。

あらためて、確認する作業から
始まった。

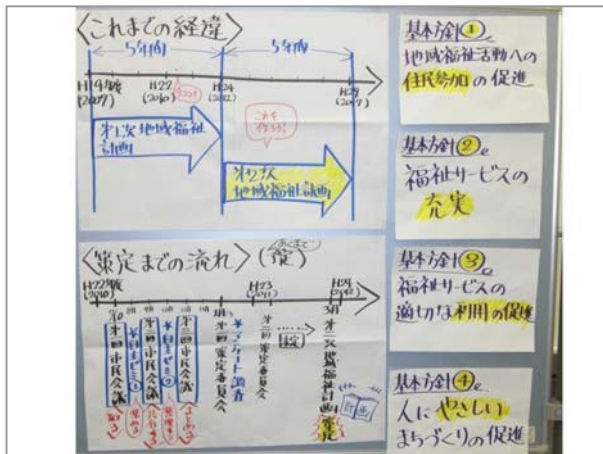
どんな会議になるだろうか？



ちょっと緊張した自己紹介。
芦屋の街の好きなところ.....かあ。

聞けば、みんな
いろいろ活動してるんだなあ。

来年度の
芦屋市の地域福祉計画
策定に向けた
「市民会議」の位置づけを確認。



聞きたいことがいっぱい。
質問や意見がどんどん飛び出す。

すでに芦屋で
取り組まれている福祉活動も
結構あることが分かった。

この図は、市民会議で明らかになった芦屋市の既存の福祉活動や団体のリストアップです。

- あはにか
- あはたの団体か
- してきたこと
 - コミュニティセンター
 - 独居老人訪問
 - ×7月17日の活動（相談会、学習会）
 - 老人クラブ3500人
 - 高令者障害者施設訪問
 - 高齢者施設訪問
 - 自治会と老人会をつなぐ
 - サロン・茶屋
 - 法的障害者の存在を →働く場/作品展
 - 法人後見の勉強会

芦屋の街が好き。
芦屋の地域福祉が気になる。
...そんな人が、こんなにいるのか。

8月28日(土)13時30分～

自主ゼミ①

於 芦屋市福祉センター

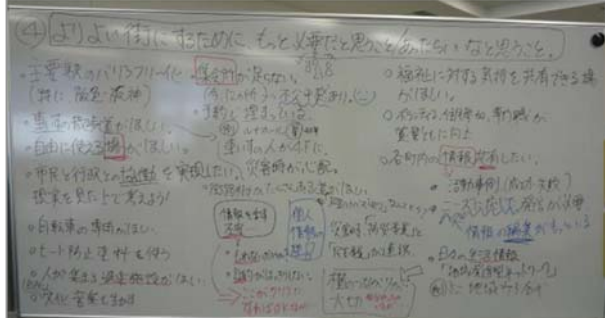
初利用!

よりよい街にするために、
もっと必要だと思うこと。

あったらいいなと思うこと。

意見が出るわ、出るわ。

止まりません。



一つひとつの課題について
じっくり話し合い、聴き合った。

おぼろげながら
課題の輪郭が見えてきた。

9月10日(土)13時30分～

第2回市民会議

於
芦屋市福祉センター



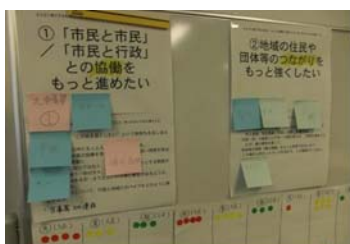
見えてきた8つの課題。

私たちは、どれを優先して
取り組むのか？

見落としがないか。

急がれるものはどれか？

そう簡単には、決められない。



そして、とりあえず決断。

議論を深めるポイントも
より具体的になってきた。



問題の原因と考えられる点を
とにかく書き出す。



見えてくる問題の複雑さ。
それぞれの原因のつながり。

10月23日(土)13時30分～

自主ゼミ②

於
芦屋市福祉センター



「なぜ、解決できないのか？」

うんざりするほど考えたら、
何をすべきかが見えてきた。

このような現状を変えるために、
自分たちにできることは何か。

やってみたいことは、
どんなことか。





紙が足りない。
アイデアがどんどん膨らむ。
もう、座ってられない。



12月13日(月)13時30分～

第3回市民会議 ファイナル

於
芦屋市福祉センター



いよいよ最終回。

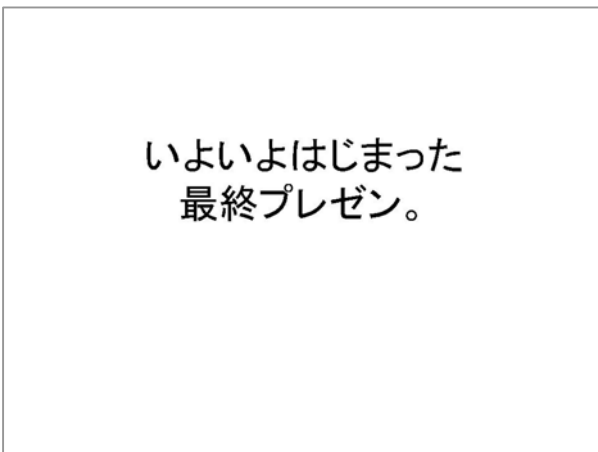
夏からはじまった
自分たちの動きを振り返る。



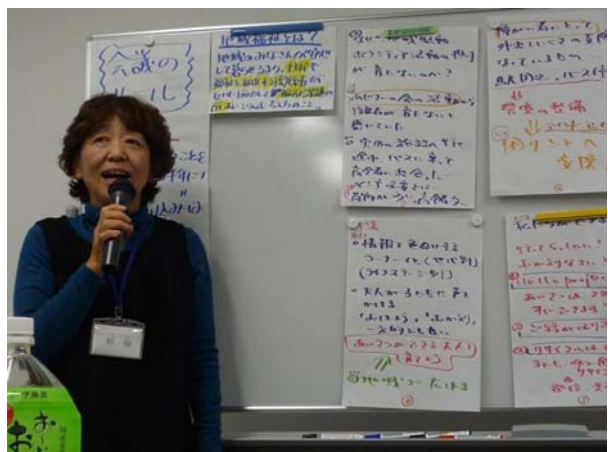


最終プレゼンテーションに向けて、みんなの思いや、分析や、アイデアを、整理・編集する。

分かりやすく伝えるには？



いよいよはじまった
最終プレゼン。



あらたに見えてきた視点、
各プランのつながり。

短い時間の発表で
思いは十分伝わっているだろうか？





厳しく温かい
専門委員からのコメント

キーワードは「つながり」
協働のポイントは「情報公開」

これからの芦屋の
地域福祉のために、
みんなのために、
話し合いを続けよう



芦屋市地域福祉市民会議
(地域福祉を話しあう会)



平成23年1月

第1回 芦屋市地域福祉市民会議（地域福祉を話し合う会） 要旨

テーマ：「地域福祉計画の概要 ～ 3年間やってみて、どうだったか？」

日 時：平成22年7月10日（土）18:00～20:35

会 場：芦屋市役所分庁舎 2階大会議室

参加者：委員26人 専門委員3人 事務局スタッフ等8人

○開会あいさつ（磯森部長）

本日はお忙しいなかお集まりいただき、ありがとうございます。

芦屋市では地域福祉計画を平成19年に策定しましたが、5年間の計画ですので、来年度が次の計画を策定する時期にあたります。それに先立ち、市民のみなさまにご意見を頂戴してすすめていきたいと考えておりますので、最後までよろしく願いいたします。

また、待ちに待った福祉センターが呉川町にオープンすることになりました。17日の午前中に式典を行い、午後1時～3時に内覧会を開催しますので、お時間のご都合が付けばご覧いただければと思います。具体的な事業は20日から行いますので、あわせてよろしく願いします。

○専門委員・事務局スタッフ等の紹介

○ニュースレター発行等に掲載する写真撮影の承諾について

（異議なく承諾されました。）

○「計画に参加することの意味」について【委員のみなさんへのエール】（牧里専門委員）

現行の芦屋市地域福祉計画は、市民のみなさんの意見を盛り込みながら「芦屋の福祉を地域に根付いたものにするにはどうすればよいか」と、頭を突きあわせながら立てていきました。計画の成果のひとつが今度オープンする福祉センターであり、まだできていないことも結構ありますが、目標を立ててできるところから一つひとつ着実にかたちにしていく「お約束の文書」のようなものです。

地域福祉計画は、2000年（平成12年）に社会福祉法が改正され、はじめて法律に記載されました。そこで芦屋市も策定されることになり、私のところに相談に来られてお手伝いさせていただくことになって、今日に至っています。地域福祉計画は、市町村に策定が義務付けられている介護保険事業計画、障害者計画、次世代育成計画などの他の計画とはやや趣を異にし、策定は義務ではありません。これは積極的に言えば「市民のみなさんのやる気、思い、願いをぶつけて、自分たちでつくってください」ということです。そのため、他の義務的な計画と違って、計画に関する予算は一切ありません。「自分で財源を見つけ出し、自分でやってください。お金がなくてもみなさんの知恵と汗、ネットワーク力、これまで培ってきた文化・資産などあらゆるものを動員し、自分たちのまちをよくするように立ててください。そうした取り組みをすれば、多少は助成事業も付けましょう」ということなのです。芦屋市は計画をつくったので、全国で50か所だけの「安心生活創造事業」の国の補助金を引っ張ってすることができました。こういう新しいやり方です。

この計画の要諦は「市民のみなさんのやる気」です。「私たちの芦屋をよくしたい」という思いを結集し、行政と一緒に次の時代の芦屋のまちをつくりあげ、次の世代にプレゼントする。これまで芦屋に住んで来られた先輩方がよいまちにしてこられたのを、次の世代にバトンタッチするために、今のうちから計画的にできることから積み上げていくものだと考えてください。今日お越しのみなさんは福祉に関心をもっておられると思いますが、関心のない人も多いです。それぞれ興味をもって、環境や文化などの面で芦屋をよくしていただくのもよいことですが、私たちは、福祉の面から芦屋がもっと懐の深いまちになるように活動し、それを専

門家がサポートし、さらに行政がそれをきちんと位置づけ発展させる。これらをすべてを組みあわせてやる取り組みだと、ご理解願いたいと思います。

私たちは助っ人で、主体はみなさんです。みなさんが中心になってやることに対して、必要とみなさんの求めに応じて専門的な立場からアドバイスしたいと思いますので、「自分たちがつくる」という気持ちを高めていただき、お互いに力をあわせていきたいと思います。

○オリエンテーション（以下の進行はファシリテーターの岡村さん[大阪ボランティア協会]）

【資料の確認】

【市民会議の全体の流れ】

- ・市民会議は3回のご案内しましたが、もう少し議論をしないと足りないと思いますので、さらに深める場として「自主ゼミ」を開催します。お時間が許される方はぜひご参加ください。
- ・資料は「一応の流れ」を示したもので、みなさんのご意見によって柔軟に考えていきます。
- ・できるだけみなさんに主体的に話しあっていただけるような「参加型の会議」のスタイルですすめますので、積極的にご参加ください。

【本日の市民会議の流れ】

- ・本日は、「①関係づくり」、「②芦屋の街の地域福祉計画とは?」、「③この3年間どうだったか?」、という流れですすめます。
- ・会議のルールとして、「①芦屋の地域福祉のことを、とことん考える半年に!」、「②“思い込み”は捨てよう! (違った角度の意見から、新しいアイデアが出てくるかもしれません)」、「③あなたも、私も大切に。(意見が衝突したときも、みんなを大事にした会議運営をしましょう)」、「④つながろう! (一期一会を大切にして、日々の活動につないでください)」、をたいへん恐縮ですが設定させていただきます。
- ・本日は8時までのご案内でしたが、内容を考えていくなかで8時半まで延びてしまいましたので、お時間が許す方はご参加ください。ニュースレター等で情報共有しますので、ご都合が悪い方は、もちろん退席していただいて結構です。

(参加者の意見)都合の悪い人がこそこそ帰るのではなく、時間が来たら声をかけてほしい。

【「参加型の会議」の実験】

- ・マーカーペンのハンドトリックをします。みなさん、真似をしてください。そのときこの場で起こったことは自然発生的な「相談」や「教えあい」です。これこそが「参加型の会議」であり、こういう空間をつくりたいと思います。そして「参加した方が面白い」という感じをつかんで、いろいろな活動につないでほしいと思います。

○自己紹介

- ・白紙を4つに折り、「①名前」、「②最近、関心のあること」、「③芦屋の好きなところ(なぜ?)」、「④この市民会議に期待すること」、を書いて、グループで見せながら自己紹介してください。

○地域福祉計画について

【これまでの経緯と今後の取り組みの概要】

- ・平成19年度スタートした5年間の計画です。平成24年度からの第2次の計画が必要になってきますので、みなさんの参加型でつくっていききたいと思います。

【計画策定時の思い】(牧里専門委員)

- ・策定委員会の前に市民会議を開き、みなさんから「芦屋への思いや意見」を出していただきました。そのなかで「拠点」の必要性もあげられ、計画に盛り込んで福祉センターができました。さらに多くの方々のお考えを聞くためにアンケート調査も行い、ボランティアに関心がある人や「目的がはっきりしていれば寄付をしてもよい」という人が多いという結果が出ました。こうしたなかから主な意見が計画に盛り込まれ、実行されているところです。

【計画策定のしくみ】（寺本課長）

- ・市民会議や市民意識調査を行いながら、学識経験者や各団体の代表の方などによる策定委員会を開催して協議していただき、市役所内の推進本部で政策決定を行います。この間、社会福祉審議会への諮問・答申等も行いますが、あくまで市民主体でつくっていきます。
- ・第2次計画は平成24年の3月につくり、4月からスタートさせたいと考えています。

（岡村さん）まずは市民会議が先行してスタートするということであり、地域福祉に熱心なみなさんが気づかれている視点を、小さなことでもいいので、たくさん出していただきたいと思います。

（牧里専門委員）現行計画でできたこと・できなかったことを見直し、どうしてできなかったのかを考えるとともに、新たに気づいて加えることもあると思います。これらは、大きく分けると、「①行政にやってほしいこと（実現のためのヒントなども含めて）」、「②私たちができること（市民が勝手にやるだけでなく、行政にもきちんと評価してほしいこと）」、「③お互いに協力してできること（今まででもしてきましたが、新たに協働することも）」、になりますが、最初からきれいに分かれるわけではないので、市民会議で出していただいたことを策定委員会で詰めていきます。市民会議でいろいろ出ないと策定員会で中身が萎んでしまいますので、できることでもできないことでも、日々感じていることや思っていることなどを、どんどん出してほしいと思います。

【市・社協が現行計画でできたこと・できなかったこと（要点）】（寺本課長）

（基本方針1：地域福祉活動への住民参加の推進）

- ・ボランティア活動センターには現在28グループと64人の個人の方が登録されていますが、福祉センターに移って拡充が期待されます。市民アンケートでも40%の方が「ボランティアをしてみたい」と答えておられますので、こうした意識を計画のなかに位置づけていくことが大事だと思っています。また、市民活動センターとの連携も課題です。
- ・地区集会所は12か所整備できました。今年新たにできる2か所の地域密着型サービス施設にも住民交流スペースを設けて整備しています。また、「この町がすき」をあらゆるところで歌っています。
- ・社協は福祉センターに移り、地域での要援護者支援の研修などを実施していきます。

（基本方針2：福祉サービスの充実）

- ・福祉センター内に介護予防センターを設置し、市内の公園に運動ができる設備を拡充していきます。
- ・市民アンケートでは「使い道がわかれば寄付してもよい」という人が52%もおられたので、これをどのようにコーディネートしていくかが課題です。

（基本方針3：福祉サービスの適切な利用の促進）

- ・高齢者生活支援センターの1か所と市内に点在していた障害者相談支援事業所を1か所にまとめ福祉センターに移ります。
- ・地域発信型ネットワークシステムを、社協が事務局となってこの4月から運営しています。

（基本方針4：人にやさしいまちづくりの促進）

- ・福祉と教育の連携では、子どもの支援などについて行政内部で話しあう機会ができました。
- ・災害時要援護者支援計画は策定途中ですが、自主防災会等と連動し、GIS（地図情報システム）を利用して駆けつけていただけるシステムを今年中につくるよう検討しています。
- ・阪神芦屋駅を中心としたモデル地区で、バリアフリー化の取り組みをすすめています。

【基本方針ごとにグループで意見交換・全体で共有】

- ・「ふりかえりシート」に書かれた芦屋市・社協の自己評価を、市民の視点で見てください。また、「住民一人ひとり」や「地域や団体」の取り組みについて、出してください。

（意見交換で出てきた質問）

*現在の寄付のしくみはどうなっているのか？

(寺本課長) 芦屋市でいろいろな寄付を受け付けており「受け皿」はありますが、みなさんといっしょに呼びかけられるような「しくみ」は、まだできていません。

*「児童の権利擁護」など、内容がわからないことが多い。

(寺本課長) 子どもの虐待については親との関係があつて難しいですが、福祉センター内に「権利擁護支援センター」がオープンしますので、いろいろな専門職が相談しながら支援していくしくみをつくっていきます。また、成年後見のニーズに対応できる人材育成や法人後見も視野に入れ、発見した人がすぐにつなげるよう、市民と支援者のネットワークもつくりたいと考えています。

(意見交換で出てきた意見)

*資料は情報が多すぎて何も具体的に見えてこない。市民は日常生活のなかでは知らなさすぎるので、要点をかいつまんで伝えてほしい。

*計画は行政のなかでは動いていても、市民には実行されているのかどうかもわからない。計画の中身が多すぎるので、今いちばん大切なことに絞って、具体的に話しあつたほうがよい。

*「寄付したい人」の多さにビックリした。この人たちの気持ちを大切にすよう、アンケートを取って使い道を明確にし、市から呼びかけてみてはどうか。

*情報提供について、高齢化がすすむなかでメディアやインターネットがどれだけ使いこなせるかという問題があるので、わかりやすい方法を考える必要があるのではないかな。

*福祉情報は、個人情報やプライバシー、本人のプライドなどがネックになって、必要な人に届いていないのではないかな。

*ボランティアの育成がどのようなかたちで行われているかをはっきりさせると、「これからしたい」と思っている人が入りやすいのではないかな。

*「芦屋川カレッジ」の卒業生などの地域活動の担い手になってもらえる人と、どのように連携していくかも大事なのではないかな。ボランティア団体と市・社協がどういう関係性をもつてすすんでいくのかも示してもらえると、わかりやすい。

*各々の団体のなかでは積極的に活動しているが、他の団体との連携(障害などの分野を超えて)が今後の課題である。

○ふりかえりワーク

・みなさんが日々、地域で多彩な活動に取り組んでいるなかで、この3年間の中心に取り組んできたことを出しあいましょう。また、これからしたいことも教えてください。

・今日は時間が足りません。次回に深めたいと思いますので、今日は主な取り組みや課題について、みんなで共有したいと思います。

(あなた・あなたの団体がしてきたこと)

*心的障害者の支援に関わっており、みんなに心的障害を知ってもらうための努力として、広報誌の発行、メンタルヘルスセミナーの開催などを行っている。

*一芸のあるボランティアが集まって「阪神えがおプロジェクト」という団体をつくり、高齢者や障害者の施設に慰問に行っている(活動PRのチラシをつくるのも一芸)。

*休眠状態だった自治会を立て直した。老人会も休眠状態なので自治会が支えていきたいと考えており、まず、集会所で月1回、老人会の名称をあらため「サロン・ドゥ・茶屋」として自主運営している。

*民生委員として、地域の子どもから高齢者までの見守りを行っている。

*コミスクはまちが活性化するよう日々努力しており、地域のボランティアが集まり、お金がないなかで運営するよう頑張っている。

*社協では、独居老人の集い(年3回)と生きがいデイサービス(月1回)を行っており、今後も継続していく。

- *老人クラブは会員を増やすことが難しい現状だが、イベントをメインに「元気な高齢者をより元気にする」よう活動している。また、地域活動として老人ホームの慰問を行っている。
- *「このまちに知的障害者がいる」ことを知ってもらうため、障害者が市民の目に触れるよう、総合公園に働く場をつくったり、障害児者の作品展を行った。

*商工会で施設の訪問や寄贈などを行っている。

(これからやろうとしていること・課題)

- *自治会で高齢者と子どもをつなぐよう、手始めにラジオ体操を始めた。しかし、私たちの自治会には集会所がなく(山の上にある集会所には高齢者は行けない)、拠点がないと話しあいをする場もなく一歩が出せないで、集まれる場所がほしい。
- *これから法人後見が必要になるので、市民に知ってもらうようシルバー人材センターで勉強会を行った。社協、民生委員、老人会などでも講演などをさせてもらって自分たちも勉強しながら、繰り返し啓発していきたい。
- *民生委員で要援護高齢者台帳の整備と見守りを行っているが、個人情報があるので、近所の人からも情報提供をしてほしい。
- *市はいろいろな取り組みを行っていることを、今日の資料を見るまで知らなかった。もっと市民に浸透するよう広報活動を工夫し、いろいろな方法でやってほしい(広報紙の字が小さい、子どもも読む意欲が湧くように)。
- *民生児童委員として虐待の早期発見・予防の活動をしており、少しでもおかしいと思ったら躊躇なく通報してほしい。認知症の人がいなくなった場合も、警察に通報すれば「徘徊SOS」で連携している人にFAXが送られる。通報は勇気があるが、必要なことである。
- *地域で生きがいづくりや介護予防などの活動を行っているが、そうした活動に出てきてくれる人は比較的元気な人であり、引きこもりがちの人に、個人情報の問題をクリアしてどうアプローチしていくかが課題である。

○専門委員のコメント

(佐瀬専門委員) はじめて参加させていただきましたが、とても活発に話しあいが行われていて感心しました。みなさんすでにいろいろなことに気づきはじめておられ、次にどうするかに期待して、わくわくしています。私は元保健師で、今は高齢者看護について教えていますが、私の研究テーマは「高齢者がボランティア活動をしながらいきいき生活すること」です。これは要介護状況や認知症になってもできることですが、自分でパワーを出せずに虐待を受けている人も保健師時代から見てきましたので、こうしたことが計画に盛り込めると嬉しいと思います。

(孫専門委員) 2年前にアンケート調査のお手伝いをさせていただきましたが、結果がみなさんに活用されていることを嬉しく思います。今回もみなさんと一緒に、さらによりアンケートをつくってきたいと思います。グループでの意見交換を聞き、地域福祉計画の主人公はみなさんであり、実現のためにたくさんのことがなされていると知りました。それぞれの団体が頑張っていますので、「ふりかえりシート」の空欄を埋めていけば膨大な取り組みになると思います。そうした情報をお互いに共有して連携していけば、地域福祉計画が実現できると希望をもっています。

(牧里専門委員) 熱心に議論していただきありがとうございます。まだ「この会議の議論はどこに行くのか」と思っている方も多いと思いますが、本当は地域ごとに計画があり、市の職員が地域に出て行けば、市民も関心をもちます。世界の多くの国々では市の職員は身近なところにおり、市の職員が「もっと地域に行ってみよう」という体制をつくることも、地域福祉の課題です。市長に「どこにお金を使う気になってもらえるか」は知恵くらべであり、他市や他の自治会、住民組織の技や知恵を盗んで、芦屋風に変えていかないとはいけません。例えば、民家を無償で提供してもらって集会所するために固定資産税をタダにするよう市に掛けあい、実現した地域があります。また、住民税の1%の使い方を地域が決める自治体もあります。これまで

地域の活動に市は口を出しませんでした。地域福祉計画は公文書ですので、そこに書き込んだ市民の活動を市は無視できません。そのように市と市民の関係を変えていくうえでの、ひとつの道具にするということです。そのためには、地域の人たちがこの計画がもつ意味を共有しないと難しいので、長い道のりですが、その一歩が今日始まったということです。

○本日のふりかえりと次回の案内

- ・時間がある方は「本日のふりかえりシート」を記入してください。お気づきの点なども書いていただき、次回の運営に役立てたいと思います。
- ・本日は駆け足で、不手際もあって申し訳ありませんでした。みなさんのご協力で、なんとか最後までたどり着きました。
- ・次回は、「してきたこと」をもう少し深めていき、どういうところに課題があるのか、今後どういうことが必要なのか、を掘り下げていきたいと思います。日時は事務局から連絡させていただきますので、ご都合のつく限り、ぜひ参加していただければと思います。
- ・本日は非常に遅くまでおつかさまでした。ありがとうございました。

芦屋市地域福祉市民会議（地域福祉を話し合う会）自主ゼミ① 要旨

テーマ：「もっと深める芦屋のこと！ 何ができたのか、課題は何か？」

日 時：平成22年8月28日（土）13:30～17:05

会 場：芦屋市福祉センター 3階第1会議室

参加者：委員15人 事務局スタッフ等5人

（進行はすべて岡村さん）

○本日のねらい・流れなどについて

- ・前回のふりかえりシートで最も多かったのは（予測していたことですが）「時間が短い」という意見でした。本日は「自主ゼミ」ですので、リラックスして意見を出してください。
- ・前回は、①みなさんの関係づくり、②「芦屋のまちの地域福祉計画とは」についての牧里専門委員のお話（どういう計画なのか、どうやってつくったのか、さらにバージョンアップするために市民会議を開くということ）、③地域福祉計画ができて「この3年間どうだったのか」のさわりについての話しあい、でした。
- ・今回は、①ウォーミングアップとしてみなさんの「人となりを知る」ワークをしたうえで、②「芦屋の福祉をとことん話しあう」会にしたいと思います。
- ・今回話した内容を題材にして、次回（第2回）の市民会議（9月10日）で、「どうやっていくのか」を話しあいますので、本日、しっかり出しあいたいと思います。
- ・前回、会議のルールとして、「①芦屋の地域福祉のことを、とことん考える半年に！」、「②“思い込み”は捨てよう！」、「③あなたも、私も大切に。」、「④つながろう！」の4つを設定しました。これは、これからも毎回確認していきたいと思います。
- ・本日の自主ゼミのようすを記録し、ホームページ等でも知らせていきたいと思います（ニュースレター等を掲載します）。写真撮影などが都合の悪い方は、気兼ねなく言ってください。
- ・本日はフリップに書き、クリップボードに挟んで見せながら、グループで話しあって共有します。書いたものを見ることで、ただ話すより印象に残ります（ワークショップ理論のひとつです）ので、大きめの字で書いてください。黄色のマジックはちょっと離れると見えにくいので、それ以外の色を使ってください。
- ・長丁場なので飴とお茶を置いてあります。自由に召し上がってください。

○ウォーミングアップ「実は私、〇〇なんです」

- ・簡単な自己紹介です。みんなを「驚かせよう」と思わなくてよいので、あまり考えずに思いついたこと書く方がいいです。
- ・簡単な遊びのようなワークですが、「じつは」という魔法の3文字を入れることで、単純に自己紹介するよりも話すきっかけがつかれます。特に、地域でよく会う方でミーティングする場合の導入にはよいので、みなさんも使ってください。

○前回のふりかえり

- ・前回の「本日のふりかえりシート」には、よい意見をたくさん書いていただきましたが、みなさんと共有することを事前にお伝えしていませんでしたので、今回は口頭で説明します。次回からは、記入者が特定されないかたちでお配りしたいと思います。

（「本日のふりかえりシート」の主な意見と、それに対する返事）

- *資料がたくさんあったので、事前に配付してもらえればよかった。→ 前回は初回でしたので配付しませんでしたでしたが、今後、必要なものは事前にお渡しします。
- *時間が短い。→ 今回からは、しっかり時間をとってやります。
- *地域福祉のことを考えている人がいることをあらためて知った。→ いろいろな方の役割をしっかりと考えていきたいと思います。
- *「地域福祉」とは何か。→ かみ砕いて言うと「市民のみなさんが地域で安心して暮らしていくために、いろいろな関係者（住民、団体、専門家、行政など）がいっしょに協力しながら課題を解決し、まちを住みやすくする」という考え方です。
- *地域福祉課は？ → 地域福祉を推進する芦屋市の部署です。
- *グループのメンバーは毎回同じなのか？ → できるだけいろいろな人と知り合っていただけるよう、毎回変えていきます。ただし、継続して議論する場合は同じメンバーでやります。
- *ファシリテーターがホワイトボードを書くのが大変そうだった。→ スタッフにも手伝ってもらうなど臨機応変にしますが、しゃべりながら書くこともファシリテーションのすすめ方のひとつです（ファシリテーショングラフィックといいます）ので、気にしないでください。

○全体ワーク

- ・いくつかの質問をしますので、「即答」でフリップに書いて、グループで見せて話しあってください。

（おすすめ方のポイント）

- ・あまり深く考えず、パッと思いついたことを書いた方が、割と本音が出ます。
- ・1枚のフリップには、1つの意見だけを書いてください。また、記入したフリップを後で整理しますので、質問の番号（以下の①～④）を、どこかに書いておいてください。
- ・フリップを書くときのコツは「体言止め」や「単語だけ」にしないことです。それらは書いたこと以上にイメージを膨らませることが難しいので、例えば「高齢化」と書くのではなく、「高齢者が多くなったので、若い人と話す機会が少なくなった」、「障害への偏見」ではなく、「偏見があるので生活しにくい」、「偏見をなくしたいと思う」など語尾でニュアンスを表すと、書いた人の思いがより伝わり、そこから話を膨らませやすくなります。
- ・グループでの話しあいでは、「なぜそうなのか」も掘り下げて話しあってください。また、話しながら思いついたこと（これが大事なことが多いです）があれば、新しいフリップに書いてください。話しながら書くのが難しければ、他の人が書いてあげてください。
- ・フリップは、グループで話しあって、前回に説明した「第1次地域福祉計画の4つの基本方針（①地域福祉活動への住民参加の促進、②福祉サービスの充実、③福祉サービスの適切な利用の促進、④人にやさしいまちづくりの促進）」のうち、もっとも近いもの（どうしても分

けられなければ「その他」)に重ねて整理してください。

【質問①「地域福祉という視点で見たときに、芦屋のまちの好きなところ」】

- ・前回も「芦屋のまちの好きなところ」をお聞きしましたが、今回は「地域福祉」の観点で考えてください。と言ってもあらゆることが福祉につながりますので、それほど悩まなくてもいいです。

【質問②「地域福祉という視点で見たときに、芦屋のまちのきれいな(具合が悪い、嫌だと思ふ、なんとかしたい)ところ】

- ・好きなところとセットですので、きれいなところも書いてください。好きだからこそ何とかしたいと思うこともあるかもしれません。「きれいなところが思いつかない」と言っておられる方がおられますが、すてきなことです。

【質問③「よりよいまちにするために、あなた／あなたの団体がしてきたこと】

- ・これも前回、少しだけ意見交換をしました。その内容をピンクの資料にまとめていますので、思い出しながら、時間の関係で出せなかったことなどを書いてください。
- ・抽象的に、例えば「まちづくりの活動」などを書くとうわがりにくいので、「近所の人を知りあいになるため、三線大会をやっています」など、具体的にわかるように書いてください。「何のために」という目的も書くと、よりわかりやすいです。

【質問④「よりよいまちにするために、もっと必要だと思うこと／あったらいいなと思うこと】

- ・今までの議論をふまえて、よりよいまちにするために、もっと必要だと思うこと／あったらいいなと思うこと(逆に言えば「課題」ですね)を書いてください。今までの話しあいのなかでも出ていましたので、それも記録するよう、あらためてフリップに書いてください。
- ・重要な意見がたくさん出ていますので、グループでの話しあいの後に全体で共有します。ご自身の意見を、どなたからでも全部出してください。

(参加者の意見 [意見交換やファシリテーターのコメント (◇印) も含む])

- *市の窓口を一本化し、何か質問したときにきちんと回答できるようにしてほしい。
- *主要駅(JR、阪急、阪神)をバリアフリー化する(特に、阪急、阪神は車いすで利用するのは至難の業の状況である)。
- *車いすの散歩道がほしい(芦屋市内には、今はない)。
- *いつでも、だれでも自由に使える集会所の場がほしい(集会所が使いづらい状況がある)。
◇集会所の話は、どのグループでも出ていましたが、どんな点が不足していますか。
→集会所がない地域がある。47町あるのに12か所しかなく、近くに何も無い地域がある。
→使いたいと思っても予約で埋まっていて、すぐに使えない場合が多々ある。福祉センターのロビーはいつでも使えるが、遠い人は来れないので不公平感がある。
→近くに空き家がたくさんあるので、利用する方法をいっしょに考えるよう市に相談したが、自治会で取り組むよう、けんもほろろに断られた。
→市長が主催する「集会所トーク」でも集会所を増やしてほしいという意見が出ており、この問題は市長にも伝わっているはずである。
◇これは「みんなで集まってなにかしたい」と思っている人が多いということの表れですね。お金がかかるので簡単にはつくれませんが、工夫できることはないでしょうか。
- *ルナホールに車いす席ができたが、エレベーターで4階に上がらないといけない。万一の災害の場合、市は「係員が対応する」と言うが、不安が大きすぎて使えない。つくるだけでなく、きちんと活用できる施設にしてほしい。
→ルナホールは40年ぐらい前にできたが、障害者対策はない時代だった。最近になってエレベーターを付け、車いすで行けるよう最低限度の整備がされたという変遷がある。
- *ハコモノとしての場所だけでなく、ソフト面で、「このまちをよくしたい」という気持ちで話しあえる場がもっとあれば、思いが共有できる。
- *「人」が充実することが大事。住民やボランティアとともに、専門職を質・量ともに増やす。

- *市民と行政の協働化が動き出しており、なんとか実現したい。そのために、行政に現実（現場）を知ってもらったうえで、お互いに考えていきたい。
- *各地域（町）の活動の状況についての情報（成功事例や悩みなど）を共有化したいが、私の立場ではほとんど見えない。
 - 3年ほど前に各町の行事をまとめた冊子ができたが、行事だけでなく、日々の生活に関する問題（カラスでゴミが荒らされるなど）についての情報があると助かる。
 - 「地域発信型とネットワーク」の「ミニ地域ケア会議」で情報を伝えあえればよいが、出席者が少ない（自治会は一部の人だけ）。そうした場をもっと増やし、活用されるとよい。
 - ◇どんな情報も、紙で回ってくるのと直接聞くのとでは違います。また、だれから、どんな場面で聞いたかが情報の生死を左右しますので、どう共有するかも大事です。行政だけでは手段が限られるので、どうするかですね。
- *行政からの情報は溢れかえるほど発信されているが、ニーズのレベルに応じて伝達するよう、分類するしくみがほしい（例えば、高齢者でも健康な人と健康でない人では、ほしい情報が違うが、冊子でもどこを見ればよいかかわからない）。
 - ◇情報の「編集」が必要だということです。重要な指摘であり、ずっと課題です。市も全体の調整をしていますが、ひとりの人がたくさんのニーズをもっているのが難しいです。
 - 行政はいろいろな情報を広報紙やインターネットで発信しているが、市民は自分がほしい情報が見つけれられない（それぞれの人にあった情報でないと、気づいてもらえない）。
 - 市は、していることをもっとアピールする方法を考えないといけない（地域福祉計画の概要版にも大事なことがたくさん書かれているのに、全戸配付されていない）。
 - 例えば、障害者団体の機関紙でも医療機関の待合に置いてもらうなど、違った場を活用することも大事である。
 - 「広報あしや」は情報が多すぎるので、特定のことだけを伝えるような編集もよいのでは。
- *自治会、老人会、防災委員、民生委員、行政などの横のつながりがもっとほしい（自治会にも連合会などでもっとアピールし、みんなでいろいろな情報を共有できるようにしたい）。
 - 自治会にも伝えるように努力しているが、なかなか聞いてもらえず、伝わらない。
 - ◇協力してくれる人が増えればうまく回るので、横のつながりをどうつくるかです。みんな大事だとわかっており、スローガンで終わらないよう、どうしていくかを考えましょう。
 - 少なくともこの会議に集まった人は、今後も何かあれば連絡を取れるようになるとうい。
- *災害時に支援が必要な人の情報は民生委員と防災委員で共有したが、個人情報の問題がある。
 - 市から災害時支援についての問い合わせの文書が来た。当事者として、災害時の支援は希望するが、家族構成などの細かな情報がどこに行くかがわからなければ（市に伝わるのではないか）不安で、提供したくないと思う。
 - ◇何のための情報で、どう管理するかということですね。今は不必要な情報はだれも持ちたくない時代であり、目的をはっきり伝えることができれば壁は低くなるかもしれません。
- *自転車専用道があればよい。
- *街中の道路にヒート防止塗料を使用し、まち全体の温度が下がればよい。
- *映画館やカフェなど、世代を超えて集まれる娯楽の場があればよい（公共施設というより、企業などでも取り組むこととして）。
- *芦屋の良さである「文化都市的な歴史」や「自然」をもっと活かしたい（福祉にこだわらず、音楽や文学のイベントを通じて自然に人が集まるなかで、まちづくりの話しあいもできる）。
- *すてきな街路樹のある通りをもっとたくさんつくり、ベンチをたくさん置いてほしい。
- *みんなでバスに乗って「芦屋めぐり」をすれば、他の地域のことがわかる。また、バスのなかで芦屋のことを話しあえばよい。

○本日のふりかえりと次回の案内

- ・踏み込んだ議論ができるようになり、日々の生活のなかでの「芦屋の課題」が出てきました。
 - ・本日の意見とフリップを事務局で整理し、今回は、いろいろな課題のなかで優先的に取り組むべきものを絞り込んでいきたいと思えます。立場によって課題の見え方が違うと思えますので、出しあいたいと思えます（この会議のような場でないと難しいことなので）。
 - ・よろしければ「本日のふりかえりシート」を記入してください。会議の運営について気づいたことなども書いてください。
 - ・時間をオーバーしてしまい、すみませんでした。本日はおつかれさまでした。
- (事務局より)
- ・次回はご案内のとおり9月10日に開催します。ご都合の悪い方はご連絡をお願いします。

第2回 芦屋市地域福祉市民会議（地域福祉を話し合う会） 要旨

テーマ：「課題を整理し、重点課題を絞る」

日 時：平成22年9月10日（金）13:30～17:00

会 場：芦屋市福祉センター 3階第1会議室

参加者：委員22人 専門委員2人 事務局スタッフ等6人

○事務連絡（寺本課長）

委員さんに変更があり、あじさいの会の中谷委員が本日から、芦屋家族会の中島委員が8月の自主ゼミ①から参加していただいています。

(以下の進行は岡村さん)

○本日のねらい・流れなどについて

【本日のすすめ方・資料の確認】

- ・今日は前回の自主ゼミ①を含めて3回目です。自主ゼミ①で出された意見をもとに、議論を深めていきます。
- ・本日は17時までです。「長いなあ」と思われるかもしれませんが、実際に話しあいをする（自主ゼミに参加していただいた方は体感していただいています）「やはり時間が足りない」という意見もいただきます。今日もそう思っただけのよう、盛り上がると思いますので、活発な議論をお願いします。
- ・みなさんに書いていただいた「本日のふりかえりシート」を共有するために、資料としてつけています。また、ニュースレターは本日の分も発行しますので、協力してください。
- ・「会議のルール」は毎回確認します。「②“思い込み”は捨てよう！」は、今回や次回の自主ゼミ②で効いてくると思えます。また、「④つながろう！」について、今日の会議が始まる前も自然発生的に話をさせていただいており、すいぶん顔見知りの方を増やしていただいていることを喜んでいきます。この市民会議が終わるころには知らない人がいないよう積極的に話しかけていただくなど、せっかくのチャンスを活かしていただければと思います。

【前回のふりかえり】

- ・前回の自主ゼミ①では、「1. 地域福祉の視点で、この街の「好き」なところ【現状認識】」、「2. 地域福祉の視点で、この街の「嫌い」なところ【現状認識・課題】」、「3. よりよい街にするために、あなた／あなたの団体がしてきたこと【成果・実績】」、「4. よりよい街にするために、もっと必要だと思うこと／あったらいいなと思うこと【課題】」の4つの視点について深めました。

【本日の流れ】

- ・今日は前回の意見を材料にして、深めていきたいと思います。
- ・まず、前回出された課題について、この会議として集中して議論するために、みなさんで「優先順位」を付けてもらいます。
- ・そして、それらの課題への対応を考えるうえで、「なぜ、不十分だったのか（なぜ、できないのか）」を深めていきます（それをもとに、次回の自主ゼミ②で「どうすれば変えていけるか」を話したいと思います）。

○課題の優先順位を決める

【前回出された課題の整理】

- ・本当は出された意見の整理もみなさんにしていただきたかったのですが、時間の関係で、私の方で以下の8つに整理しました。
 - ①「市民」と「市民」／「市民」と「行政」との協働をもっと進めたい
 - ②地域の住民や団体等のつながりをもっと強くしたい
 - ③地域福祉活動、ボランティア活動の担い手を増やしたい
 - ④地域生活での困りごとを支援するサービスや活動を充実したい
 - ⑤「行政」／「地域」／「個人」の情報をもっと活かしたい
 - ⑥地域で話し合いや活動ができる拠点を確保したい
 - ⑦芦屋市内の移動（交通・道路など）をスムーズにしたい
 - ⑧芦屋の自然や文化を地域福祉にもっと生かしたい
 （④について、自主ゼミ①ではあまり多くの意見は出ませんでした、「3」の「していること」で多くの活動が出されており、関心がなかったということではありません。）

【追加すべき課題】

- ・前回欠席の方もおられますし、あらためて並べてみて抜けていることもあるかと思います。
 - ・まず、個人で考え、各グループのなかで2人組で、感想なども含めて話しあってください。
- （意見）
- *障害者、高齢者へのサービスを提供する事業所間の連携がもっとできていれば、介護者が急に家を空けるときに預かってもらうこともできます。また、そのための情報を福祉センターが介在して伝えれば、介護者が安心できます。こうした問題が現実あります。

（岡村さん）その問題は、まさに②の「つながり」に入ります。
 - *この会議には障害者や高齢者を支援する団体の方が参加されていますが、障害者、高齢者ご本人が出て、意見を言っていただくとよいと思います。

（岡村さん）「当事者の声」を聞くことは大事な視点で、①の市民と市民の「協働」に入ると思います。
 - *福祉というと高齢者や障害者の介護のことと思われませんが、子どもの虐待の問題も胸が痛みます。こうした事件では、親が相談したり子どもを預ける方法を知らなかったことも問題であり、市民と行政が協働し、情報を提供することが大事だと思います。

（岡村さん）相談場所は特に大事な「情報」ですので、今の意見を⑤に加えます。
 - *⑧の「自然や文化」で「国際文化住宅都市」があげられていますが、その内容をみんなが具体的に知っておいた方がよいと思います。また、みんなで「芦屋はとバス」のツアーをして地域を知るのはよいことだと思います。

→「国際文化住宅都市」と言われても、何を指しているのかピンときません。せめて市内の案内に外国語の表記があればと思いますが、それもあります。

→「国際文化住宅都市」は、戦災復興のために昭和26年に国でつくられた芦屋市だけのための特別法に基づくものですが、この法律は芦屋市の住民投票を経てできたものです。この法律は、国から補助が出るわけではありませんが、私たちが新しいことをするときうまく使っていくことが大事だと思います。

(寺本課長) 現在はいろいろな国の方が芦屋に住まれていますので、市民レベルで認めあう「多文化共生」も課題になっていると思います。

*団体で冊子などをつくってPRしようと思っても、なかなかみなさんに行き渡りませんので、PRの方法を考える必要があると思います。

(岡村さん) ⑤の「情報」をどう活かしていくかですね。

*⑦の「移動」について「車いすの散歩道」をあげましたが、車道と交錯せずに距離を確保できるのは芦屋川の河川敷しかないと思いますので、書き加えてください。

*①の市民と行政の「協働」に関して、私は図書館で活動していますが、その活動を図書館の職員がほとんど知らないの、もう少し興味をもち、温かい目で応援したいと思います。

(岡村さん) そうした具体的な方法については、本日の後半や次回で相談します。

*⑤の「地域の情報」の「地域」とは、芦屋市全体ですか、それとも一人ひとりが住んでいる地域のことですか。

(岡村さん) 両方だと思います。

【優先順位づけ】

- ・これら8つの課題のなかで、この会議で中心に議論していくべき課題を決めたいと思います。
- ・まず、ご自身にとって優先度が高いと思うものから、赤＝3点、黄＝2点、緑＝1点を1つずつ選んでシールを貼り、合計点を出します(点数だけで決めるわけではありません)。
- ・今日は上位5つを選んで議論したいと思いますが、選ばれなかった課題は取り組まないということではなく、報告書にもきちんと記載します。なお、各課題について前回の自主ゼミ①で出された意見はあくまで参考であり、それ以外のことについても議論します。

(質問)

*「優先」には、「課題が重要」という面と、「解決できる可能性が高い」という面がありますが、どちらで考えればよいですか。

(岡村さん) 「大切さ」と「難しさ」の2つの軸がありますが、今回は「大切さ」で考えてください。

*ここで選んだ順位は、「行政が取り組む順番」なのですか。それとも「この会議で考える順番」なのですか。

(岡村さん) 第1回に説明したように、芦屋市では平成24年3月に第2次地域福祉計画を策定することになっており、そのために市民の意見を集めています。その第1弾がこの市民会議で、(市民を代表しているわけではありませんが)日々活動している有志の方々に集まっていただき、活動を通じて感じておられる課題をふまえて質の高い議論をしていただいています。そして、さらに広く意見を聴くためアンケート調査を行い、来年スタートする策定委員会で議論されます。したがって、市民会議の意見がそのまま政策になるわけではありませんが、計画策定のなかでおおいに参考にされるという位置づけです。

(集計結果)

①「協働」	= 赤：12、黄：6、緑：3 → 計21点
②「つながり」	= 赤：12、黄：8、緑：3 → 計23点
③「担い手」	= 赤：3、黄：12、緑：1 → 計16点
④「困りごとの支援」	= 赤：9、黄：2、緑：1 → 計12点
⑤「情報」	= 赤：15、黄：8、緑：2 → 計25点
⑥「拠点」	= 赤：6、黄：6、緑：4 → 計16点
⑦「移動」	= 赤：3、黄：0、緑：5 → 計8点
⑧「自然や文化」	= 赤：3、黄：0、緑：2 → 計5点

・単純に点数で見ると、⑤「情報」、②「つながり」、①「協働」、③「担い手」、⑥「拠点」の5つになります。外れた3つについて意見はありませんか。

(意見)

*①「協働」と④「困りごとの支援」と⑤「情報」はすべて行政が絡んでいるので、ひとつにできるのではないかと思います。

→⑤の「情報」は、「今ある情報や制度を活かしきれていない」という見方ができるので、①の「協働」とは分けた方がよいと思います。

(岡村さん) あわせて議論することも検討した方がいいので、後で相談します。

*「どうしてその課題を選んだか」の意見は聞けないのでしょうか。

(岡村さん) 特に、選ばれなかった3つに「赤」を入れた方の意見をお願いします。

→⑧「自然や文化」は、これからのことを考えると、芦屋は阪神間でいちばん自然に恵まれていますし、そのなかで文化を育てていくことが結果的に地域福祉につながり、「国際文化住宅都市」に近づけるのではないかと。それぐらいの長いスパンで、文化を中心にまちづくりを考えるのがよいと思いました。

→⑦「移動」は、私が障害者を代表して参加しているということと、人が動かないと参加もなにもできないという意味でいちばんの基盤です。お金がかかることなので財政がよくなくてもいいですが、重要度は高いと思います。

→④「困りごとの支援」について、今朝、別の会議で「高齢者のゴミ出し」の問題が出ました。そうしたことを支援する制度はないので、地域で組織をつくっているところもあり、ちょっとした困りごとについて相談したり、助けてもらえるしくみは、いちばん身近なことだと思いました。

→④「困りごとの支援」について、行政は公平・平等が基本なので平均的なサービスしかできません。また、これから人口や税収も減少する時代を迎え、できるサービスは少なくなります。1世帯あたりの人口も減り、困りごとのある市民がどんどん増えていきますが、公では対応できないので、市民団体などが公の援助も受けて活発に動かないと、市民の福祉はよくなりません。

→④「困りごと」は、福祉は高齢者、障害者のことだけでなく、子どもたちや若い人のことも考えないといけないと思って入れました。

(岡村さん) ④はまさに地域福祉の課題ですね。

*④に住民が取り組んでいくうえでは、②「つながり」と③「担い手」がベースになります。

「つながり」や「担い手」が増えれば、サービスや活動は必然的に充実すると思います。

(牧里専門委員) 優先順位を付けることは「価値判断」ですが、大事なものは「判断の基準」です。例えば、障害者の問題は、対象者が少なくても人権に関わる問題なので重要だという基準があります。また、これからひとり暮らしの高齢者が増えるので、優先的に考えるべきという基準もあります。そうした「基準」を議論することが大事です。政策は願望がなければできませんが、財源などの実現可能性も考えないといけないという面もあります。しかし、みなさんがどういう「基準」で課題を選んだのかを議論すれば、もっと深みが出ると思います。

*ゼロからスタートするのは大変ですが、⑤の「情報」は「かなり氾濫しているのに、十分に活かさせていない」という意味で、すでにあるものを編集することで比較的効率よくできるので、着手しやすいと思って選びました。

*①の「協働」では「市民と行政の協働」があげられていますが、この会議で行政の声はどう出していけるのですか。

(岡村さん) 市民会議は市民のみなさんが主役です。地域福祉は「地域のみなさんが安心して暮らせるように、住民や福祉を推進しようとする関係者が互いに協力し、福祉の課題の解決に取り組む」ことですので、行政にやってほしいことも出しますが、行政にも限界がありますので、市民や団体ができることも考えたいと思います。

(項目の調整)

- ・地域福祉ですので、これらの8つの課題はすべて関連します。
- ・そのうえで、⑧の「自然や文化」という資源を活かすことは、各課題のなかで議論できると思います。
- ・⑦の「移動」は、前回の自主ゼミ①でも多くの意見が出され、課題としては認識されていますが、これは④の「困りごと」に含まれます。④は赤を付けた方が3人もおられますので、その前提となる③の「担い手」とセットにして考えてみましょう。
- ・つまり、【①「協働」】、【②「つながり」】、【③「担い手」と④「困りごとの支援」と⑦「移動」】、【⑤「情報」】、【⑥「拠点」】の5つとし、⑧「自然と文化」はすべてのグループで議論することにします。しかし、あまり堅く考えませんので、違う話が出てきても構いません。

(議論のグループ分け)

- ・まず、ご自身が議論したい課題を選んでください。
- ・みなさんにご配慮いただき4～5人のグループになりました。これらの課題を「どうやって乗り越えるか」につなぐために、今日は「なぜできなかったのか、どこが問題だったのか」をこのグループで議論します。

(佐瀬専門委員)「なぜ不十分だったか」を掘り下げると、どうしても「あれが悪い」という犯人捜しの話になりがちですが、「ここが良い」というところを先にあげて、足りないところを考えることが大事だと思います。行政の悪いところがたくさん出てくるとは思いますが、それだけあげつらってもしかたがないので、市民としてできることも射程に入れ、計画もイメージに入れて発言していただけるとよいと思います。夢を語りたいと思いますが、実際に展開できそうなところも考えると、より具体的に前にすすめる議論になると思います。芦屋は「関西でいちばん住みたいまち」に選ばれましたが、そうした一般論のイメージ以外でみなさんが語れる市民会議になれば、と期待しています。

○「なぜ、不十分だったのか」を掘り下げる(マインド・マッピング)

- ・課題別に各グループで「なぜ、不十分だったのか」を掘り下げるために、「マインド・マッピング」という方法で意見を出してみたいと思います。

(マインド・マッピングの方法)

- ・漠然と話をしていると、堂々巡りになることがあります。それは、口で話すだけだと、関連していることがあってもつながりが見えないからです。「マインド・マッピング」は、それを見えるようにするやり方です。「マインド」は「心、気持ち、考え」、「マッピング」は「置く」という意味で、「自分の心や気持ちや考えが、どの位置にあてはまるかを整理する」方法です。その特長は、「①文字に考えを書くことで、整理しやすくする」、「②思考の堂々巡りを防げる」、「③意見の関係がわかりやすくなる」ということです。

(例題「なぜ団体の会員が減るのか」)

- ・例題として「なぜ団体の会員が減るのか」という課題を考えてみます。まず、その原因として考えられるものを出し尽くします。みなさんから「楽しくない」、「一人で何でもしてしまう人がいる」、「団体の存在をアピールできていない」、「声が大きい人がいる」などの意見が出ました。そのとき、それぞれの原因に関連する話をしたくなりますが、それは堪えて、まず中心となる問題の原因を出していきます。
- ・原因として「リーダーに問題がある」ということもあり得ますが、そう言ってしまうと悪口になってしまうので、もう一步踏み込んでどこが問題か(「声が大きい」など)を考えてください。つまり「少し気を遣って書く」のがコツです。それは、今しようとしていることは「できる条件を探るための前向きな話しあい」だからです。しかし、「犯人捜しになりがち」という畏がありますので、みんなで気をつけましょう。
- ・第1段階の原因がひと通り出たら、次は第2段階の原因を考えます。例えば「楽しくない」のはなぜかについては、「理想が高すぎる」、「人の輪が図れていない」、「活動そのものがつま

らない」などの意見が出ました。また、「一人で何でもしてしまう人がいる」のは、「他の人にやる気がない」などの意見が出てきます。そして、第3段階では、例えば、「他の人にやる気がない」のは、「押しつけられている」ことや「あてにされていない」などの意見が出てきます。

- ・ここで「あてにされていない」のは、「一人で何でもしてしまう人がいて、信用していないから」であるなど、前の段階の原因とつながる相関関係が見えてきます。書くことによって、見えてくるのです。
- ・こうした話しあいを徹底的に繰り返して、思考を深めていきます。

(本日の話しあいのポイント)

- ・本日の話しあいのポイントの1つは、例題のなかでみたよう「できる条件を探るための課題と原因」を話しあうということです。
- ・もう1つのポイントは、「私たちがとりくむ地域福祉」について考えるということです。今日は、市民のみなさんが「自分たちの生活をどうするか」を話しあうための会議ですが、「あれもこれも行政がすべき」という話だとそこで思考が止まってしまいます。「われわれがどう関わっていけるのか」ということも含めて、いろいろな角度で意見を出してください。

(話しあいのすすめ方)

- ・グループですすめる際は、進行する人と書く人がいっしょだと忙しいので、それぞれの役を分けて決めてください。進行役の人は「あまり意見を言わない人がいないかどうか」に気をつけてください。また、書く人は「言った人に確認しながら書く（勝手に自分の言葉に置き換えて書かない）」ようにしてください。
- ・今回は第1段階から、部分的に第2段階、第3段階の原因に話がすすみましたが、さらにもう1段階深めれば、そのなかで対策が見えてきた「原因」もあると思いますので、そこまで繰り返していけるとよいと思います。一方、どうにもならずに行き詰まる「原因」もありますが、それは置いていてもかまいませんので、変えていけそうな「原因」に狙いを定めて、掘り下げてみてください。おそらくそれが、次回の議論に直結する話になると思います。

(やってみた感想)

- *非常に難しく、「なぜ不十分か」の「現象」より、先にその「原因」を考えてしまいました。
(岡村さん)「なぜ」は「原因」ですが、「なぜ」を繰り返すのは結構苦痛なので、「それをどう克服するか」という方法に話が及んでいるテーブルもありました。それは当然のことだと思います。大変な思いをさせてすみません。「どうしていけばよいか」は、次回の自主ゼミ②で、今回と同じメンバーのグループでさらに深める議論したいと思っていますので、ぜひ参加してください。

(各グループの報告)

- ・各グループで出た話を、書く役だった人が報告してください。他のメンバーの人が模造紙を持って、みなさんに見せてください。

《⑥地域で話し合いや活動ができる拠点を確保したい》

- *まず、「高齢者などのニーズが多くなった」という意見が出ました。そして、「行政が時代の流れを読み取っていないので、時代とともに変化が必要」、芦屋特有のこととして「空き家があっても持ち主が地域に提供してくれない」、「地域の住民どうしのふれあいが少ない」ので「ボランティアができる人が少ない」ため「地域での話し合いが少なくなっている」という原因が出されました。

(岡村さん)なぜ「空き家を提供してくれないか」は、さらに原因を深められそうですね。それぞれの原因の関係がわかりにくいので、図に線を引いておいてください。

(牧里専門委員)「できていない」というマイナス評価は、ひっくり返せばプラス評価にもなります。例えば、「空き家を提供してくれる人もいるのはなぜか」を考えれば、「福祉に関心がある」や「地域に愛着がある」などの理由が見えてくるので、否定の否定という「二

重否定」をすると、どういう対策を打てばよいかはわかってきます。そういう目線をもてば、「なぜ」を重ねる苦痛が少し和らぐのではないかと思います。

《⑤「行政」／「地域」／「個人」の情報をもっと活かしたい》

- *「情報が多すぎる」ということや、情報を「伝える方法が下手、出し方が画一的、出すルートが決まり過ぎ」などの出し方の問題が最初に出ました。また、個人情報については「法律が壁になっている、本人や家族の意識が壁になっている」ということです。「地域間の横のつながりが薄いので流れにくい」ことや、高齢者では「情報誌があってもひとりで読むことができない人がある」こと、高齢者に限らず「読まない人がある」という原因も出ました。
- *さらにそれらについての原因を出していきましたが、「情報が多すぎる」ことについては「市民会議などで選別する」、「誰に対しての情報なのかを知る」などの方法が出ました。「伝える方法が下手」なのは「必要な情報が見つからない」からなので、「情報の項目がほしい」という方法が出ました。「出し方が画一的」に対して「市民の興味を引く出し方を考える」という方法が出ましたが、それは「出すルートが画一的」や「伝える方法が下手」とつながるので矢印を付けています。「ルート」について、広報紙については「新聞をとっていない人がある」ので「いろいろな場所に情報誌を置く」という方法が出ました。
- *個人情報については「自力で集める」、「読むことができない」には「伝達する第三者」という方法が出ましたが、「身近でないことに関心が薄い」ことも原因ですので、「情報を知る側の意識を高める」ことも必要だという話になりました。
- *「横のつながり」については、②の課題ですので、そのグループにお任せします。
- *問題点として「一人ひとりが知りたい情報を吸い上げるシステムがなく、知りたい人に知りたい情報が届けられていない」ということが出ました。

(岡村さん) 自然と「方法」の話に行ってしまうのは、自然なことだと思います。

(牧里専門委員) たくさん意見が出たので図が複雑になっていますが、ここでは援助が必要な人の個人情報の問題が中心だと思います。情報には政策情報、生活情報などいろいろあり、いっしょにしてしまうとややこしいですが、個人情報についても「本当に必要とする人の目線に考えられているかどうか」がポイントだと思います。それがうまくいっていないので、画一的な情報を出し、届いていないということです。したがって、「どういう条件のもとで言えるか」(例えば、お金がない人は必要な情報を得にくい、若い人は新聞をとっていないので広報紙もあまり読まないなど)を考えると、方法が出てくるということです。

《①「市民」と「市民」／「市民」と「行政」との協働をもっと進めたい》

- *まず、「市民と行政」について、協働がすすまない原因として、市職員に「ボランティア精神がない、腰が引けている、教育が不徹底」という厳しい意見が多く出ました。また、「市民と市民」の協働が深まらない原因として「人間関係が希薄になっている」、「芦屋では市民活動が弱い」が出ました。
- *それぞれの第2段階の原因についてはいろいろ意見があり、まだ詰め切れていません。

(牧里専門委員) なかなか難しい課題です。市民にも行政にも限界がありませんが、市民と行政の理論が全く違う「二項対立」になっているのは、どこがずれているのかが出てくれば、「なにをもって協働なのか」、「市民と行政が入り交じる部分はどういう領域なのか」が見えてきますので、もう一押しできればよいと思います。

(岡村さん) この課題は、この会議に参加されている方全員が関心のあるテーマですので、第1段階での思いが強く出たのだと思います。第2段階を深めているところでしたので、次回に期待します。

《②地域の住民や団体等のつながりをもっと強くしたい》

- *まず、「情報が伝わっていない」、「集まる場所がない」などの原因は、他のグループで検討をお願いします。
- *「リーダーがない」、「マンションが多い」、「旧住民と新住民が混在している」などの原因

が出されましたが、「地域について関心がない人が増えている」ということがいちばんの原因のひとつなので、話を深めました。

- * 「地域に関心がない」ことの原因として、「他のことで忙しい」、「めんどくさい」、「生活が自己完結している、困っていない」などが出ました。また、今の若い人は「みんなでいっしょにすることの楽しさを知らない」のではないかという意見も出ましたが、その「若い人」が新しく芦屋に来た人なのか、芦屋で生まれ育った人なのかで違ってくるという話も出ました。これは、「マンションが多い」という原因につながるかもしれません。

(岡村さん) 徐々に深めていくことで、思考の流れがよくわかる図になりました。さらに続けていけば、次の段階にいけそうです。

(牧里専門委員) これも非常に難しい課題ですが、考えるヒントは「今はできていないが、かつてはできていた」という仮説を立てることです。できていたとすれば「なぜ」なのか。その時代の家族・親族や町内会・自治会のつながりや仕事のしかたが、今とはどう違うのかを考えると、見えてくるものがあると思います。昔の町内会のイメージの話をすると、全く昔に戻せるわけではないので反発が来ますが、仮説をきちんと整理すれば、どうすれば違った意味での今風のつながりができるかを、他市の取り組みなどから学ぶこともできると思います。

《③地域福祉活動、ボランティア活動の担い手を増やしたい+④地域生活での困りごとを支援するサービスや活動を充実した+⑦芦屋市内の移動(交通・道路など)をスムーズにしたい》

- * まず、「困りごと」の概念には非常に個人的なイメージがあり、「助けてもらうのはあたりまえ」という意識の人も「解決する気もない」人もいて、社会のシステムというより個人の資質によるという捉え方でした。他に「友人・知人などの気軽に話せる人がいない」、「人と人のつながりがなくなっている」、また、「自分で助けてと言えない」人がいるのは「知り合いがいない」、「どこに訴えればよいかわからない」などの意見が出ましたが、割とスケールが小さな話のような感じがしました。

- * 「自分で助けてと言えない」という原因に対して、子どものころから困ったときには言えるような教育をしてはどうか、という意見も出ました。また「情報がキャッチできない」という原因については「情報を子育て、大人、高齢者など世代ごとに分ける」ことで、必要な人に必要な情報が届く工夫ができればいいという話になりました。「友人・知人などの気軽に話せる人がいない」ことについては、「地域」というより「隣近所との接点がない」ことがいちばんのネックになっているので、隣近所の人困りごとに耳を傾けることが必要です。

- * 「困りごとの内容による」は、病気を変わってあげることではできませんが、経済的なことであればアドバイスができるということです。その話のなかで、虐待の対応は芦屋市での対応は素早くすばらしいという話が出ましたので、こうしたことをPRしてほしいと思います。こういう情報を聞くと嬉しくなり「私も何かしよう」という意識になりますので、「困りごとがあっても解決できる道がある」という明るい情報が入ってくればよいと思います。

(岡村さん) 芦屋にはそうしたすばらしいところがあるという情報を聞き、ほっとしました。

(牧里専門委員) 情報についてはその「質」を考える必要があり、「自慢できるよいこと」の情報は知ってほしいですが、「困りごとの情報」は人には知られたくない情報です。「自分がいかにダメか」ということですので、人には言い出せないという矛盾があります。どうすればそのバリアを低くできるか、「言いたくないけれど」という気持ちを受け止める相談や支援ができるか、を考えるとよいのではないのでしょうか。

(佐瀬専門委員) 短い時間にこれだけたくさんの意見が出て、「芦屋の力」を見せてもらった気がします。特に、抽象的にまとめられていることがすごいのですが、もう少し身近なこととして考えると、「なぜ」の部分も具体策もわかりやすいと思います。それには時間が必要ですので今日は難しかったですが、より具体のレベルで、自分に置き換えて考えてイメージしてみることで、また、そのときも「今の自分でできること」と「ちょっと前」や「ち

よっと先」のことを考えてみると、別のアイデアが出てくると思います。最終的には抽象的になると思いますが、お互いに理解するためには事例も出しながら深めていけば、もっと具体的な方法論が出てくると思いました。

○本日のふりかえりと次回の案内

- ・「本日のふりかえりシート」を記入してください。
- ・今日はハードな話しあいになったと思います。地域福祉はいろいろなことが関係するので難しいですが、そのなかから突破口を見つけていければと思います。
- ・本日はあえて苦しい「なぜ」を続ける作業をしてみました。このバネにたまったエネルギーを活かし、次回はみなさんの知恵やアイデアで「どう乗り越えていけるか、条件を変えていけるのか」を話しあいたいと思います。
- ・次回まで1か月以上空いてしまうのが残念ですが、今日のマインドを温めておいていただければと思います。本日のようすはニュースレターでお届けしたいと思いますので、思い返しておいてください。
- ・今日はこのグループでしっかり原因を考えましたので、次回も継続して掘り下げ、方策を考えていきたいと、今のところ思っています。
- ・本日はこれで終了します。長時間おつかさまでした。次回にお会いできるのを楽しみにしています。ありがとうございました。

(事務局より)

- ・委員さんから団体のチラシ配付の依頼をいただいていますので、お持ち帰りください。

芦屋市地域福祉市民会議（地域福祉を話し合う会）自主ゼミ② 要旨

テーマ：「このような現状を変えるために、自分たちにできること／やってみたいこと」

日 時：平成22年10月23日（土）13:30～16:45

会 場：芦屋市福祉センター 3階第1会議室

参加者：委員13人 事務局スタッフ等7人

(事務連絡：寺本課長)

- ・本日は高年福祉課の細井課長補佐も参加させていただきます。来年度に高齢者の福祉計画を策定しますので、みなさんのお話を聞かせていただきたいと思います。
- ・11月13～14日に福祉センターで市民フェスタと保健福祉フェアを開催します。保健福祉フェアのプログラムのひとつとして、14日の午前10時からシンポジウム「私たちが創る私たちの町」を企画しており、牧里先生に講演とコーディネーターをお願いし、市民会議の委員の本郷さんにもパネラーとして実践報告をしていただいて、芦屋市の地域のことについて考えていきたいと思っておりますので、ぜひご参加ください。

(以後の進行はすべて岡村さん)

○本日のねらい・流れなどについて

- ・本日は、秋のイベントシーズン真っ盛りのお忙しい時期に設定したため、2つのグループが実施できなくなり反省しています。
- ・本日は議論のヤマ場になります。次回の最終回に向けて深めていきたいと思っております。
- ・まず、いつもの会議のルールを確認します。「①芦屋の地域福祉のことを、とことん考える半年に！」(あと1か月になりましたが)、「②“思い込み”は捨てよう！」(今日も「こんなこ

とがしたい」と前向きに)、「③あなたも、私も大切に。」(ここに居ない人も含めて大切にしながら、意見交換をしていきたいと思います)、「④つながろう！」(この市民会議は地域福祉推進に日々関わっている人材の宝庫ですので、全員と知りあいになっていただきたいと思います)。

- ・本日のねらいは、「①課題分析をもう1歩深める」、「②自分たちでできることを考える」、「③1つ選んで企画の詳細をイメージする」の3つです。前回は、地域の課題を解決していくうえで「こんな問題がある」という課題分析を、マインド・マッピングという手法で行いました。本日は、それをふまえて「自分たちでどんなことができるのか」を話しあっていきたいと思います。これが本日のメインの議題です。時間があれば、そのなかから1つを選んで少し詳細に考える時間をとり、次回につないでいきたいと思います。
- ・今回は各グループで進行役をお願いしています。②班は社協の宮平さん、③/④班は社協の佐津間さん、⑤班は事務局の原田さんです。記録はメンバーのみなさんをお願いします。

○課題分析をもう1歩深める — 前回のマインド・マッピングの確認

- ・まず、前回の話しあいについて、参加されなかった方を意識して3～5分ぐらいで振り返り、そのうえで全員が順番に一言ずつ、感想を話してください。
- ・前回は話しあったことが思い出せたでしょうか。論点を整理し、さらに広げる議論をしたり、どう対応していくかを話していただいたグループもありますが、課題の原因を探れば対応がセットで出てくるのは自然ですので、その議論に移っていききたいと思います。

○「自分たちできること」を考える

- ・マインド・マッピングで整理した「現在抱えている地域の課題と、その原因」という現状に対し、それらを変えていくうえで「自分たちでできること」や「やってみたいこと」を考えてみたいと思います。市民会議なので「自分たちがすること」を中心に考え、それをすすめるうえで地域の人や団体、行政などにサポートしてほしいことは、後で考えたいと思います。
- ・「したいこと」は、「できたらいいな」と思っている夢はあげてもらっていいですが、「絶対にできると思えない」ことはやめておきましょう。
- ・議論をわかりやすくするように、「〇〇するために」(目的)、「△△する」(やること)という共通の書き方にします(後で目的別に意見を集めれば、整理しやすいかも知れません)。
- ・全員が意見を出せるよう、まずは相談せずに、1人3つ以上の意見を付箋に書いて下さい。1枚の付箋に1つの項目だけを書きます。これは「カードKJ法」という、有名な整理の方法です。
- ・カードKJ法は、話すだけの会議では、口で言っただけの言葉は消えてしまうし、声の大きい人(偉い人)の言葉だけが通ってしまいがちなので、そうした問題をできるだけ少なくするための方法です。カードに書けば、力の大小にかかわらずカードの面積は平等ですし、言ったことがきちんと残るので話を覚えなくてもよく、議論に集中できます。また、1枚に1つの意見を書くので、同じ意見を重ねるなど、関係を図示することができます。どこでも使える手法なので、ぜひマスターしてください。
- ・付箋には、他の人が読めるように鉛筆やボールペンは使わず、マジックペンで大きな字で書いてください。カードの出し方は、順番でもいいですし、関係のある意見をみんなで出していくやり方でもいいですが、説明をしながら出し、他の人はそれをきちんと聞くというルールを忘れずにすすめてください。後半になると話が盛り上がり忘れがちになるので、進行役の人が仕切るように(これをファシリテーションと言います)心がけてください。
- ・カードKJでは、意見を整理すること以上に、一人ひとりがカードを出しながら意見を言うことに醍醐味があります。つまり、意見を聴いて触発されたり刺激を受けて、どんどん新しい創造的なアイデアが出てくるのが重要なのです。今回も他の人の話を聞いて思いつい

たことを、新しい紙に書いて足してってください。

- ・たくさん意見が出てきたら、同じような意見をまとめるなど、整理をしてください。四角の枠で囲んだり、矢印を付けたりしますが、それらを説明するタイトルの書き方が重要で、(以前にもお話ししましたが) キーワードとなる単語だけだと、他の人が見たときに「何が問題で、何をするのか」がわかりにくいです。ポイントは「話し言葉」で書くことです。そして、「～する」のように動詞などを入れて具体的にニュアンスがわかる表現にするなど、工夫してください。

○1つ選んで、企画の詳細をイメージする

- ・整理ができれば、「もし、私たちが何か1つやるとしたら」ということで、詳細に考えてみたい取り組みを1つ選んでください。
- ・そして、その取り組みの「タイトル」、「ねらい」、「対象」、「やること」、「あったら嬉しい応援」を考え、それらを「企画書風」にまとめてください。
- ・それぞれのグループのまとめができてきました。すごく面白いのですぐにでも共有したいのですが、最終回に置いておきたいと思います。

○本日のふりかえりと次回の案内

- ・今の気持ちを共有したいと思います。
 - (③/④班) 大きな声を他のグループの邪魔をしてしまいましたが、とても盛り上がりました。発表したい気持ちでやまやまです。
 - (⑤班) お互いの悩みごとがよくわかり、共有できたことはよかったです。
 - (②班) こんなに長い時間をかけてひとつのことを考えたのは久しぶりなので、頭のなかがパニックです。いろいろ問題があり、共有するのは大事なことだと思いました。
- ・本日のふりかえりシートを書いていただきながら、聞いてください。
- ・次回は専門委員にも参加していただき、最終プレゼンテーションを行います。前半は発表のための準備時間とし、本日お休みだった2つのグループには頑張って追いつけてもらい、みなさんは「どんなプレゼンテーションをするか」を相談してください。次回まで時間が空きますので、今日の議論を思い出していただくことが必要になりますし、本日お休みの方とも「今日の温度感」を共有してください。
- ・後半はプレゼンテーションです。私も5回のワークショップの流れを報告するよう、準備してきたと思います。7分ぐらいで報告し、専門委員の質疑応答やコメントのやりとりも7分するということかたちで、1グループあたり15分ぐらいの時間配分をイメージしています。
- ・発表にスライドや動画などを使うのであれば、必要な備品は可能なものは準備しますので、事前に事務局に連絡してください。
- ・プレゼンテーションの方法は基本的には自由ですが、これまでの議論の経過がわかるよう、つぎの4つの共通の軸を設けておきたいと思います。
 - まず、「①よりよい街にするために、もっと必要だと思うこと/あったらいいなと思うこと」をフリップ方式で出しあい、ここから議論をスタートさせました。
 - そして、「②「なぜ、できないのか?」をマインド・マッピングで出しあいました。
 - 今日は、「③現状を変えるために、私たちができること/したいこと」をカードKJ法を使って出し、
 - そして、「例えば、私たち、こんなことをやります」という取り組みを選び、具体的した企画書を考えました。
- ・こうした流れがわかるようなプレゼンテーションを考えてください。それぞれの議論の際につくった模造紙などを使ってもらえばいいですが、見えにくい文字を書き換えたり、紙芝居風のものをつくってもらってもいいです。動画、スライド、絵、写真などを持ってきてもいい

いので、プレゼンテーション用に仕立ててください。

- ・これらの準備作業が、次回の前半の時間で収まらないと思う場合は、グループで自由に集まっていたいただくのも大歓迎です。集まる場所は事務局に相談してください。
- ・ある程度の作業分担はしてもらってもいいですが、みんなで考えたものになるよう、誰かがまとめるのではなく、できるだけグループで検討・準備をすすめてください。
- ・今日も、各グループで充実した企画書を考えていただいたので、淡々と報告するのではなく、聞いて面白いものになるように話しあってください。専門委員も参加されますので、ぜひ充実した発表会にしたいと思います。
- ・今日は少し早めに終わりますので、名刺交換や自己紹介などの時間として使ってください。

(事務局より)

- ・次回までにグループで集まる場合の場所や、発表の方法や備品の準備などについては事務局にご相談ください。できるだけ協力していきたいと思います。

第3回 芦屋市地域福祉市民会議（地域福祉を話し合う会） 要旨

テーマ：「最終プレゼンテーション」

日時：平成22年12月13日（月）13:30～17:00

会場：芦屋市福祉センター 3階第1会議室

参加者：委員19人 専門委員3人 事務局スタッフ等8人

○開会（寺本課長）

- ・市民会議は7月に始まり、3回の会議と2回の自主ゼミを開催してきました。今日はいよいよ最終日です。これまでの議論を積み上げて、プレゼンテーションのかたちで発表していただきます。また、本日は今後のすすめ方についてお話ししたいと思います。
- ・前回の自主ゼミ②から、市の高年福祉課の職員が参加させていただいています。細井に加えて今回は吉川も参加させていただきますので、よろしくお祈いします。

(以下の進行は岡村さん)

○本日のねらい・流れなどについて

【本日のすすめ方・資料の確認】

- ・いよいよ最終回です。早かったでしょうか。本日は最終のプレゼンテーションです。専門委員や市の部長に思いの丈を伝えたいと思います。
- ・本日は趣向を変えて、まず観ていただきたいものがあります。
(岡村さんが作成した第1回からの経過をまとめたパワーポイントを上映)
- ・みなさん思い出していただけたでしょうか。途中から参加していただいている方もおられますが、こういう流れでここまで来ました。
- ・本日は、これまで議論してきた視点を第2次地域福祉計画の策定委員会にきちんと伝えるためのプレゼンテーションを、後半に行います。
- ・そのために前半は、プレゼンテーションに向けた準備を行います。前回の自主ゼミ②は、みなさんがお忙しい時期に設定してしまったため欠席の方が多く、作業ができなかったグループがありますので、①グループは、他のグループと分けて作業を行います。
- ・②、③／④、⑤のグループは、まず前回の議論を思い出しながら、これまでの流れがわかるプレゼンテーションを工夫してください。市民会議では、まず「よりよいまちにするために必要だと思うこと／あったらいいなと思うこと」を8つに整理しました。そして、それらに

ついて「なにが問題なのか」をマインド・マッピングで考えました。そうした現状を変えるために「どんなことができるのか／したいのか」のアイデアを出し、具体的にしたいことを企画書にまとめました。プレゼンテーションの時間は1グループ7分ですので、そのなかでそうした流れがわかるように意識してください。

- ・この部屋にある道具は自由に使ってください。この部屋のなかでできれば、どんなかたちでもいいので、ポイントが伝わるよう“ひねり”を入れてみてください。寸劇でもいいです。

○プレゼンテーション

- ・それでは順番にプレゼンテーションを行います。1グループ7分ですので、時間になったらベルを鳴らします。全グループが終わってから、専門委員の先生方に講評をいただきます。あわせてみなさんも質疑応答をして、議論を深めたいと思います。
- ・発表の際には、まず、各グループで検討した「いちばん大事な課題やテーマ」を言ってもらえると、わかりやすいと思います。

【①グループ「市民」と「市民」／「市民」と「行政」との協働をもっと進めたい】

（議論のなかで出てきた「言葉」）

- ・今まで、市民と市民、市民と行政の関係について、私たちもあまり考えたことがありませんでした。しかしここ数年、「市民参画」や「協働」という言葉が言われだしています。
- ・「苦情」と書いていますが、今までは日常生活で困ったことがあると、行政に要望したり文句を言いに行くことがほとんどだったということは、否めないと思います。しかし、われわれ市民も、それだけではダメだと考えました。
- ・近隣の関係が希薄になっていますが、まず市民と市民がつながりを持ち、町内会的なところでも市全体でもいいので「自分ができることやしたいこと」を、少しでもいいから具体的にやり、お互い協働していくことが非常に大事です。
- ・また、市民と行政（職員）の協働については、われわれも職員もまだ不慣れ面がありますが、今までのように苦情型だけではダメで、市民がやりたいことに職員を巻き込み、市民が初めて経験するような部分は、職員の力を借りてレベルアップしていくようなことが必要です。

（「言葉」をまとめたレポート）

- ・市民と市民の協働については、つながりが希薄になっているなかで、まず「芦屋に対する愛着」が重要になってきます。芦屋のまちをよく知り、「文化を守りたい」、「まちをよくしたい」などの思いをもつことが大事です。
- ・そして、ボランティア精神をどう生み出していくかです。①グループのメンバーの場合は、震災のときに助けられたことや子どもが喜ぶ顔を見ることから、そうした気持ちが出ています。それを人に伝えることで新たに生み出していきよう、これら（芦屋への愛着やボランティア精神の喚起）を盛り込んだイベントを企画する。そして、成功体験を共有することで、つながりがより深くなっていくのではないかとということが、ひとつの結論です。これは非常に地道ですが、「地道でもしっかりやっていく」ことが大事なコンセプトだと思います。
- ・また、せっかく良いイベントをやっても、後から「なぜ声をかけてくれなかったのか」と言われることがありますので、その人の役割をつくったり直接声をかけるなど、楽しい思い出にしていく工夫も必要です。
- ・一方、市民と行政（職員）の協働では、市民と職員が協働について一緒に考えていくことが大事なのではないかということです。これも地道ですが、この市民会議で知恵を絞って考えたように、苦楽をともにすることがいちばん大事で、自分たちでやって問題を共有することで関係がより深くなり、つながっていくのではないかと考えました。

【②グループ 地域の住民や団体等のつながりをもっと強くしたい】

→ パワーポイントを使ったプレゼンテーション

- ・私たちのグループは、前回の自主ゼミ②から今日までの間に「自主自主ゼミ」として1回集まり、このプレゼンテーションをまとめました。

(どうつながりたいのか)

- ・いろいろな組織がもっと横につながりたい。行政のタテ割りに不平不満を言わず、横の関係を築こう。各地域の情報をもっと共用できないか。この場の人的ネットワークを活かす。この場限りにしない。

(本当につながっていないのか)

- ・一定のつながり（世代ごとのつながり、子どもの親たち、趣味の集まり、犬の仲間、当事者の集まりなど）はあります。しかし、そのつながりでは、家にこもっている人やひとりで悩んでいる人を引っ張り出す方法が見当たらず抜け落ちてしまいますので、地域でのつながりが必要です。

(なぜ、つながらないのか)

- ・マインド・マッピングでは、第1段階の原因として、地域について関心がない人が増えている、住民の生活様式がちがう、旧住民と新住民が混在している、マンションが多い、リーダーがいない。集まる場所がない、情報が伝わっていない、という意見が出ました。
- ・そのなかで、意見が多かった「地域について関心がない」という原因を深めていくと、めんどくさい、他のことで忙しい（面倒くさい人もたいていはこう言います）、生活が自己完結している、困っていない、みんなでいっしょにすることの楽しさを知らない、ということが出てきました。

(なにができるか)

- ・まず「現状を知る」ことです。そのために、アンケート調査や困りごとを話しあう場をつくって地域の人に聞きます。
- ・そして「知ってもらう」ことです。関心をもってもらうために、地域での活動の情報をこまめに伝えたり、いっしょに活動することの楽しさを知ってもらったり障がい者の理解につながるよう啓発の機会をもちます。
- ・そのうえで「顔が見える関係づくり」として、声かけ、共同でのイベント、子ども会を卒業した人が自治会活動に参加できるしかけ、若いリーダーを養成するための役割や機会づくり、地域の居場所づくりなどができます。

(企画書—私たちはこれに取り組みます)

- ・話しあいのなかで「つながっていない人」には、つながりたくない人、つながることができない人、あと一押しすれば参加しそうな人、の3タイプがあるということが出てきました。今回はまず、あと一押しすれば参加しそうな人をターゲットにして考えました。
- ・取り組みのタイトルは「ひとり一役運動」です。ねらいは顔が見える関係づくりで、町内会等の活動に参加しそうな人（特に若い人）を対象とします。
- ・「すること」としては、声かけ・ヒアリング・アンケートをしながら、相手によっては半ば強制的に引っ張り込むという手段も使いつつ、「それぐらいならできる」という役割を、地域のなかにたくさんつくっていくことが大事だと思っています。
- ・そのときに「あったらうれしい応援」は、住民全員のボランティア活動、ヒアリングやアンケートは地域の人だけではなかなかできないので、そのサポート、拠点として（立派でなくてもいいので）すぐに集まれる場所、たくさんつくった役割をまとめられるリーダーです。

(希望的まとめ)

- ・地域のつながりを強くすることにより、現在困っている人や自分が困ったときなどに、たすけあえる環境ができます。そのためには、地域住民一人ひとりの気持ちが大切であり、熱心に活動されている人々の気持ちが伝わればよいと思います。そのために、集まる拠点の整備や活動の中心となる人材の育成など、行政の協力が必要なこともあります。

(希望的“宣言”)

- ・私たちは「みんなつながれ作戦」に挑戦します。キーワードは、①コミュニティ再生と、②新しい公共です。

【③／④グループ 地域福祉活動、ボランティア活動の担い手を増やしたい／ 地域生活での困りごとを支援するサービスや活動を充実したい】

(なぜ、私たちがここに集まったのか)

- ・認知症の人の家族会の活動をしているメンバーは、出かけるときに不自由な思いや危ない思いをしているのを見て、そうではない状況をつくりたいと思っていました。また、障がい者の活動をしているメンバーは、外出時に支障となっているものが少しでも快適にできればいいと思っていました。そこで「環境の整備」を考えようと、このグループに入りました。しかし、マインド・マッピングを行うなかで、「困りごとの解決がなぜできないか」という心の問題に変わってきました。

(「困りごと」を解決するために、わたしたちができること)

- ・まず、現状や原因について話しあいました。そのなかで、自分で発信できない、伝える友人・知人がいない、「してもらってあたりまえ」と思ってコミュニケーションを取らない、困りごとを解決するための情報が届いていない、解決する気がない、気軽に人と出会う場がない、ということが出てきました。
- ・そして、それらを解決する手法として、情報がきちんと届くように広報を対象別にコーナー化し、いつも同じところに載せたり色分けをすることや、大人から子どもに声をかけたり、あいさつをすることなどが出てきました。
- ・具体的なプロジェクトは、「①Hello project」(「いってらっしゃい」、「おかえりなさい」のあいさつを私たちの方からする)、「②ご縁がありますようにプロジェクト」、「③リサイクルはどこまでもプロジェクト」(子どもの洋服だけでなく介護用品などもできるよう発信する)、「④外に出る！出る！プロジェクト」(さっと集まれる場所をつくったりイベントに参加する)、そして、私たちのメインである「⑤芦屋ベンチプロジェクト」ができました。

(「芦屋ベンチプロジェクト」)

- ・重い荷物をもって人や高齢者、障がい者などがちょっと座れるベンチを、芦屋のまちにたくさん作り、座りましょう、というプロジェクトです。芦屋でつくられているいろいろなマップを参考にして「ベンチがここにありますよMAP」をつくりたいと思います。
- ・プランのタイトルは「出会いベンチプロジェクト～出かけよう！つながろう！～」です。だけれども、だれとでも気軽に話せる芦屋をめざすために、障がい者や認知症の人などだけではなく、芦屋のすべての人が座れるベンチをつくりたいと思います。
- ・「やること」は、町別にヒアリングしてベンチが必要なところや設置可能なところを把握し、それをもとに行政に相談します。関心を集めるためにベンチのデザインや描きたい人を公募して選考し、寄付や広告も募ります。そして、ベンチMAPを作成し、広報活動を行います。
- ・私たちも芦屋のベンチをリサーチしてきました。写真を撮ってきたので見てください。ベンチはみなさんの声を聞いて増やしていきたいと思います。
- ・このプロジェクトはメンテナンスが必要ですので、「その後の企画」として、ベンチの入った風景の絵画コンテスト、ベンチから始まった物語(ベンチがとりもつご縁)エッセイコンテスト、「ベンチ」を入れた俳句コンクールなど、ベンチにまつわる楽しい企画を考えて、続けたいと思います。

【⑤グループ 「行政」／「地域」／「個人」の情報をもっと活かしたい】 (議論のなかで出てきたキーワード)

- ・「個人情報の開示」、「データの使い方のマニュアル」、「ニーズのレベル」といったキーワードが出てきましたので、それらをまとめて、ひとつのストーリーをつくりました。

(いちばんの問題と、その理由)

- ・いちばんの問題は「必要な情報がみつけにくく、探しにくい」ということです。情報は（特に行政からは）あふれるほど出されていますが、うまく探しきれないことが問題なのです。
- ・それは、「行政と市民の距離が遠い」ところに基本的な問題があり、行政の目線で情報をつくっているからだ、という認識に立ちました。

(われわれがめざすもの)

- ・そこで、「市民が参加したかたちの情報紙を作成する」ことをめざします。行政がつくる広報紙ではなく、情報紙です。
- ・情報紙は、市民目線の情報を盛り込むことを目標にします。そのための具体的な方法として、市民からの要望を吸い上げるためのしくみづくりを、地域に密着した自治会、民生委員、子ども会、コミスク、福祉推進委員などが関わっているコミュニティの力を活用してつくりまます（その副次的な効果として、それぞれの団体が連携することで横のつながりが強くなると期待しています）。
- ・もうひとつの方法として、市の広報紙づくりや会議にできるだけ参加させてもらい、行政はどのような方法を把握し、発信しようとしているのかを勉強したいと思います。
- ・情報紙の内容については、まだ具体的にはなっていませんが、「市民の生命や安全」に関わることを優先すべきではないかと考えました。情報が探しやすいように、家電製品の取扱説明書の「困ったときに」の欄のような「Q&A方式」にしてはどうかと考えています。

○講評と質疑応答

- ・各グループのプレゼンテーションを壁に貼りましょう。壮観ですね。内容をすべて覚えていくわけにはいきませんが、見ながらの方が話しやすいですね。

(佐瀬専門委員)

本当におつかれさまでした。壁一面のプレゼンテーションは壮観で圧倒されます。これだけのことを短い時間にされたみなさんに脱帽しながら、細かなことに突っ込ませていただきます。

①グループ（協働）の発表では、どのような「協働のイメージ」で検討されたのだろうと思いました。「市民」とは隣にいる人なのか、それとも、まだ出会えていない人なのか、小さな部分と大きな部分がありますので大変な議論です。今回の計画づくりではそういう検討をしないといけないので、そのなかでより深く実感できればよいと思います。また、「市民」と「行政（職員）」のよい関係は難しいです（私も行政にいましたのでわかります）が、発表は「市民も職員も近づきましょう」ということでした。市民も勉強する必要がありますし、職員も「自分もどこかのまちの市民だ」ということを忘れないようにしながら、「いっしょに協働しよう」というアピールを市民の側からするという、とても大事な視点が示された、よい発表でした。イベントの企画も、全市的な取り組みにするか、自分の自治会の取り組みにするかで、大きさも質もつながりも変わってきますので、そうしたことも考えながら、今回の計画づくりをすすめていければよいと思いました。③／④グループは女性の視点できめ細かな話が出ているように、地域に密着した生活感からよいアイデアが出てきますので、そうした部分の発信があるとよかったです。

②グループ（つながり）も、かなり細かな議論ができています。「団体等」の範囲について、今日の発表では身近なところから考えられていますが、当事者団体や、地域の宝物である事業所や企業、学校なども含めて、地域にある諸々の団体とのつながりも考えるともっと広がりができて、動きやすいのではないかと思います。このグループは「自主自主ゼミ」までして、「宣言」も出されましたので、いよいよ実行できるところまでできています。こういう会議は提言のレベルで終わってしまうことを懸念していましたが、そうではない部分が既に見え始めてい

ますので楽しみです。「宣言」の実行を期待しています。

③／④グループ（担い手／困りごと）は、女性パワーによる細かな話なので、とても視点が温かく、聞きやすかったと思います。アイデアはまだまだあると思いますので、続けてほしいと思います。どういう人に担い手になってもらうかは、なかなか難しい話ですが、最後はロコミかもしれません。②グループの発表にあった「引っ張り込む」力は、人と人のつながりやロコミのなかで広がりが出てくると思います。私は高齢者のボランティア活動の研究を続けていますが、施設に入っている要介護の高齢者も雑巾を縫い、地域に届けています。みなさんが「ケアをしてあげないといけない」と思っている当事者も担い手になる、という視点も忘れずに、地域のなかでつながっていければよいと思いました。

⑤グループ（情報）は、堅くて難しいテーマですが、きちんと話しあってまとめられたことに脱帽しています。市民参加型の情報紙にも期待していますので、作ってほしいと思います。また、広報紙に対して提案したり参加するアイデアもあっていいと思います。市民目線はとても大事ですので、広報紙をつくっている職員の「どこかの市民としての目線」への期待を、市民の側から提案してもよいと思います。「市民からの要望を吸い上げるしくみをつくる結果として、地域の団体のつながりが強くなる」という発想は、とても素敵だと思います。実は活動している市民もタテ割りで、対象別や事業別の集まりになってしまいがちですので、ヨコにつないでいくうえで大事な視点だと思います。

そうした意味で、いくつかの発表で出た「イベント」は、戦略としてよいものだとしみじみ思いました。私の住んでいる地域でも2つの自治会がいっしょに花見をして、そこから声かけられる関係ができています。何もきっかけがないと動きにくいので、大々的なことでなくてもいいから、できるところから始めることが大事だという思いを、発表を聞いて強くしました。

（孫専門委員）

ほとんど佐瀬先生が言われましたので、私は外国人で、年齢的には若いという視点で、疑問に思ったことや、わかりにくかったことを質問させていただきたいと思います。

私は神戸市に住んでいますが、仕事は西宮市や大阪市、今日は芦屋市でしています。「地域にいない人間」なので、今日の発表を聞いて心が痛いところもあるのですが、そういう立場から今日のキーワードである「つながり」について、「何のためのつながりなのか」ということを、みなさんに訊きたいと思います。現代はつながりがないと生きていけないので、学生は授業中も携帯でつながっているほど、つながりを大事にしていますが、そういう友人や趣味などではなく「地域でつながること」の意味は何なのでしょう。それを教えてほしいと思いますし、私も自問自答していきたいと思います。テーマ型だとつながりやすいですが、ネットの知識などがなくてつながれない高齢者や言葉が通じない外国人などには、地域が受け皿を用意しなければいけないと思います。つまり、どういう人をつなげていかないといけないのか、ということです。忙しい若者を地域につなげていくのであれば、その意味は何なのかを考えていかなければいけないと思います。

もうひとつは、「新と旧の壁」です。例えば、発表にあった「芦屋の文化を守りたい」というのは、ずっと芦屋で生活してきた人の思いです。一方、新しく芦屋に来た人は「芦屋ブランド」を求めて来たのであり、地域に対する思いが違いますので、そうした人たちも取り込んでいくのであれば、自治会や老人会の活動などとは違う取り組みが必要になってくるのではないかという気がします。あるいは、そういう人たちには、違う役割を果たしてもらう（税金を払って、問題を起こさずに過ごしてもらえばよいなど）という発想もあり、これから考えていかないといけないことだと思います。

今は「問題が起こってから考える」という人が多いです。私も明日の授業の準備を考えないといけないので、要介護になったときのことは考えられません。自転車操業の毎日のなかで、将来に備えて地域とつながっておく必要性は理解できても、実際には難しいので、何か起こったときに必要な情報が得られるような「わかりやすい情報紙」は大切です。また、「担い手」は

これまでとは違う層を狙っていかなければなりません、市民全員ではなく、ある程度ターゲットを絞った方が攻めやすい気がします。

(岡村さん)

孫先生から投げかけをいただきましたので、みなさんの意見を聞きたいと思います。「何のためにつながるのか」、「地域が得意なこと」などについて、どうでしょうか。

(市民委員)

私は自治会の活動に参加していますが、果たして自分の自治会で取り組んでいることがよいことなのか、また、地域の課題について、よい解決手法が取られているところはないのかなどが気になっています。しかし、芦屋市には何十という自治会がありますが、ほとんど情報共有ができていません。それは非常にもったいないのではないかと、かねてから疑問に思っていました。そういう意味で、地域と地域がつながることの必要性を感じています。

(孫委員)

行政だけでなく地域もタテ割りになっているので、それをなんとかしてつなげていくということは、すごく大切なことです。

(岡村さん)

地域にはいろいろな協議会やネットワークがありますので、もっと活かせるといいですね。

(市民委員)

組織はあっても実態はないので、残念に思っています。

(牧里専門委員)

4年前から「全国校区・小地域福祉活動サミット」をやっています。第1回は豊中市、第2回は西宮市と宝塚市の共催、第3回は大津市、第4回は松江市で開催し、来年は11月26日に宇治市で開催する予定です。北海道から沖縄まで、全国から1,500人ぐらいが集まり、目から鱗のすばらしい活動を交流しています。よい活動でも、評価されずに埋没していると長続きしませんが、お互いに交流しあうことで「やっぱり同じ思いの人がいたんだ」、「やっててよかったんだ」と、つながりあっています。興味があれば参加してみてください。

プレゼンテーションについては、「つながり」の話が多く出ています。それは、今いちばん問題になっているのは「無縁社会」であり、近隣や家族、市民と行政なども含めたつながりがしっくりいっていないために大きな問題が出始めていることに、みんなが気づいてきましたが、どうすればよいかはわからず、決め手に欠いているということだと思います。

この「つながり」の問題は「コミュニケーション」(意思疎通を図ること)が昔よりも難しくなったためではないかと思います(昔は上から下に言われていただけで、コミュニケーションがあったわけではないとも言えます)。テーマ型などの同質的なグループでのヨコのコミュニケーションはありますが、少しずれると話ができない、違う世代とは会話ができないという状況に、特に若い人はどんどんなっています。今の大学生は学級崩壊の最初の世代だと言われていますが、コミュニケーションが取れない人が就職して仕事ができるのかと、心配になることがあります。「違う人と話をする力」がなくなっていることが深刻な問題なのです。地域にはいろいろな人がいて、いろいろな人とコミュニケーションすることで、まちづくりができていました。しかしそれが危機的な状況になりつつあり、その結果として所在不明の高齢者やひきこもりの青年、虐待などの問題が起きているのです。

そういう状況のなかで「つながりのコミュニケーション」を開発するひとつの切り口として、「ベンチMAPづくり」などが提案されました。「リーダーがない」という話をよく聞きますが、それは従来型のリーダーを探そうとするからで、自治会の仕事はしんどいと思っても、お祭りやイベントなら企画から実施までできる人はいるのです。そのように、特技を活かして楽しみながらできるコミュニケーションのしかたをもっと開発しないと、タテにもヨコにもつなげなくなるということです。

これらは「市民(住民)」の活動の課題ですが、自治会や婦人会で動ける人がいなくなると、

行政も今までのように丸投げすればよいというわけにはいかなくなります。やり方を変えなければ行政機能が維持できなくなっていますので、どのようにパートナーシップを組み、行政と住民の役割をつくっていくかがポイントになると思います。そのために重要なのは、なんといっても「情報公開」です。役所はお金も人手もなくなっていますが、「知恵もない」と市民にはっきり言えば、「それならやってもいい」と言う人も出てきます。現在の「情報開示」は市民が要求することへの対応なので、役所はできるだけ隠そうとしますが、そうではない関係づくりをすすめるとともに、開き直って役所の側から「情報公開」し、問題をわかりやすく示して共有すれば、変わってきます。これからは「情報をいっしょにつくっていく」よう、この市民会議で出てきた情報（提案）なども、政策をつくったり選択していくうえでの材料にすることが大事です。今まで、市民が行政に届ける情報の典型は「要望書」でしたが、要望とこの市民会議の「意見」の違いのポイントは、要望書は、市民はぶつけるだけで、やるかどうかは行政が判断するのでなかなかすすみませんが、この会議の意見はみんなで議論し、選りすぐって「要望仕分け」をしたものなので、行政もまじめに考えざるを得ないということです。そして、「意見」がきちんと取り入れられるかどうかを見守る責任もありますので、みんなで見守っていきましょう。

（市民委員）

市民活動センターも「つながる力」と名付けた取り組みを行っています。しかし、そこに参加している人とこの市民会議に参加している人をみると、同じこと目指しているのにメンバーが全く違いますので、どこかで連携ができればよいと考えていました。1月22日に「オール芦屋 in 新春」を開催しますので、今日で終わるのではなく、そちらにつなげていただければよいのではないかと思います。

（岡村さん）

発表にもあったように、地域が得意なこととテーマ型の団体が得意なことがあり、両方でやった方が効果的なこともありますので、ぜひ、そうしたつながりもつくってもらえればよいと思います。そのためにも知り合いを増やしましょう。少なくとも地域福祉の活動をしている人が全部知っているぐらいにして、またその人の知り合いにつながっていければ、かなりの人脈になりますので、それをぜひつくってほしいと思います。

○今後のすすめ方について

- ・牧里先生のお話にもありましたが、今後のすすめ方はみなさんも気になっていると思いますので、市から説明してもらいます。

（寺本課長）

- ・市民会議の最初に、岡村さんから地域福祉計画の流れを話していただきましたように、第2次計画は、まず、この市民会議を開催し、策定委員会を来年の2月から5～6回開催して、23年度中に策定したいと考えています。
- ・市民会議の意見については報告書を作成し、みなさんに議論していただいた「重点的に取り組むことが望まれる課題」や「地域福祉をすすめていくための取り組みとして必要なこと」などをまとめていきたいと思います。また、市民会議を終えての「メッセージ」を、できればお名前も入れて（匿名でも結構ですが）掲載していきたいと思います。この報告書をもとに、責任をもって策定委員会に報告させていただきます。
- ・また、あらかじめお約束していましたように、市民公募の委員（6人）のなかから2人の方に策定委員会に入っていただきます。入っていただく方は、策定委員会のメンバーの調整が終わりましたらお伝えしたいと思います。策定委員会にはいろいろな団体の代表の方にも入っていただき、20人弱ぐらいで開催していきたいと思います。
- ・また、策定委員会と並行して、4月以降に「検討委員会（または検討部会）」を設置し、市民の方に参加していただきたいと思っています。第2次計画は、策定委員会と検討委員会（部

会)をつなぎあうかたちでつくっていきたいと思っており、策定委員会の委員も検討委員会(部会)に入ってもらいながらすすめていきます。この市民会議の議論だけで終わるのではなく、市民と行政が協力して計画をつくっていきたいと思いますので、ぜひご参加いただきたいと思います。

- ・牧里先生が言われた「小地域福祉活動サミット」に、今年は私も参加しました。いろいろなすばらしい取り組みをされていて衝撃的でした。来年は宇治市で開催されますので、みなさんやお友達といっしょに行きましょう。
- ・最後に、専門委員の先生方や、支えてくださった岡村さん、原田さんにお礼を言いたいと思います。

(磯森部長あいさつ)

第1回からごくろうさまでした。和気あいあいのうちに議論していただき、本当にありがとうございました。

各グループの発表を聞いて、1点だけ気になることがありました。それは「ベンチプロジェクト」です。ものすごく具体的で、夢のある取り組みがたくさん詰まっている気がします。

また、市民と行政の協働について、これから地域福祉をすすめていくうえでは、市民の方がどのように行政を取り込み、使っていくか、また、行政も市民の方とどのようにいっしょにすすめていけるかがキーポイントではないかと感じています。

来年度は第2次計画の策定に具体的に入っていきますが、みなさんにもお力添えをいただかないといけない部分がありますので、今後も見放さずに付きあってください。本当にありがとうございました。

○本日のふりかえりと次回の案内

- ・いよいよ最後の「本日のふりかえりシート」になります。変化をみるために毎回同じ質問をさせていただいていますが、最終回ですので少しだけ変えていますので、書いてください。

(質問)

- ・報告書はいつごろできますか。また、私は欠席した回があり、全体の把握ができていないのですが、議論した内容のとりあえずのまとめはありませんか。

(寺本課長)

- ・報告書は、1月7日までにみなさんのメッセージをいただき、それを入れて印刷をかけるので、1月末ぐらいの完成を予定しています。
- ・各回の議論は、ニュースレターで報告させていただいています。報告書と別にまとめをつくる予定はありませんが、報告書のたたき台ができましたらみなさんに送付し、ご意見をいただきたいと思っていますので、それを参考にさせていただければと思います。

(岡村さん)

- ・これまでは、「報告書を策定委員会に出して、それで終わり」というかたちが多かったのですが、検討委員会(部会)をつくって、もう少しみなさんに関わっていただくかたちにさせていただいたのは画期的です。引き続きよろしく申し上げます。
- ・本当に長い間参加していただき、感無量です。スタッフ一同、あらためて感動しています。こうした参加型の話しあいの機会は、単に呼ばれて行くだけではなく、いろいろな人脈をつくったり、自分たちの計画にしていくよう、うまく活かしていただければと思います。
- ・ここまで続けていただき、大変だったと思います。本当にありがとうございました。

これまでの芦屋 これからの芦屋 ～芦屋市の次期地域福祉計画に向けて～

こんにちは。私は、関西学院大学4回生の和気 輔(わき・たすく)です。今回ご縁があり、市民会議のレポーターを務めることになりました。毎回の会議のホットな内容を、できるだけ早くニュースレターにしてみなさんにお伝えします。どうぞよろしくお願い致します。

さて、2010年7月10日、芦屋市役所分庁舎2階大会議室にて1回目となる市民会議が行われました。この会議は「芦屋市地域福祉計画」を、市民のみなさん自身の生活に、より密着した、住民主体の計画にするために実施していきます。

第1回市民会議は、オリエンテーションの後、互いに自己紹介をしてこれから会議をご一緒するみなさんと知り合いました。その後、そもそも地域福祉計画とは何かについて解説を受け、また過去3年間の実践をふりかえりました。会議を進行するファシリテーター役は、大阪ボランティア協会の岡村さんが担当しました。

① 計画に参加することの意味



話し合いに先立ち、関西学院大学の牧里教授より地域福祉計画への市民参加の意味というテーマで、お話をして頂きました。「地域福祉計画は、策定が義務付けられているわけではなく予算も無い。これは、積極的に言えば、『みなさんの知恵や経験を結集して、自分たちの街を良くする計画を自主的に作ってください』ということ。街の文化や財産など、あらゆるものを導入し、やる気をぶつけて頂きたい」と委員のみなさんへエールが送られました。

② オリエンテーション・自己紹介



有意義な対話の場にするために、4つのルールをみなさんで確認しました。「①芦屋の地域福祉を、とことん考える半年に!」「②“思い込み”は捨てよう!」「③あなたも、私も大切に」「④つながろう!」。これからの約束ごとですね。

自己紹介では5つのグループに分かれ、日頃の関心事や芦屋の街の好きなところを話し合いました。

【この会議に期待すること】との問いに対しては、「情報や刺激がほしい」「福祉に対する理解が市民にひろがること」「別の角度から福祉を見たい」など様々な期待・動機を分かち合い、笑いの中にも多様な視点が示されていました。市民会議については、当初3回とご案内していましたが、もっと議論が必要ではとのことで、自主ゼミを2回追加することになりました。

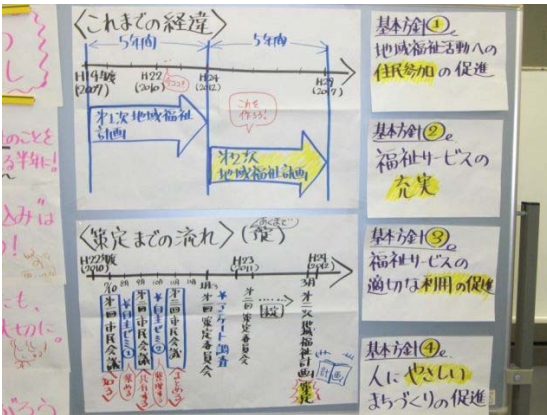


③ 地域福祉計画について



そもそも芦屋市の地域福祉計画とは何か、どのように進められるのか、といった概要について、芦屋市職員の方から説明がありました。「みなさんの参加によってなされる市民会議、また広範囲なアンケート調査等を実施し、策定委員会で原案をつくり、審議会への諮問、答申なども行って推進本部で決定する」という計画策定の流れです。ちょっとヤヤコシかった(?)ので、併せて図でも説明がありました。

④ これまでの3年間での地域福祉計画のふりかえり



このようにして作られた計画に基づいて、現在どのような取り組みが行われているのかについてふりかえりました。地域福祉計画の4つの基本方針別に各グループで話し合い、質問や意見を全体で共有します。初めは、「書いてある計画が多すぎる。また、難しすぎる」「計画を列挙するだけでなく、順位をつけるべきではないか」「このようなことが行われていたことなど知りもしなかった。もっと地域住民に対し、知らせる努力をすべきでは?」といった厳しい意見も多かったですが、「うちの団体は、△△な取り組みを行っています」「こういう情報は、〇〇に問い合わせればいいよ」と地域情報が交換される場面も。

最後は、専門委員の佐瀬先生、孫先生からコメントをいただきました。みなさんのメモをとる姿、うなずく姿に、芦屋市のことを真剣に考えておられる情熱を感じさせられる一日でした。

★次回は…、

自主ゼミ：8月28日(土)午後1時30分～

テーマは「もっと深める芦屋のこと！ 何ができたのか、課題は何か？」です！

<今後の予定>

- ・ 自主ゼミ① 8月28日(土) 午後1時30分から5時
- ・ 第2回市民会議 9月10日(金) 午後1時30分から5時
- ・ 自主ゼミ② 10月23日(土) 午後1時30分から5時
- ・ 第3回市民会議 12月13日(月) 午後1時30分から5時



★ 次回も、委員のみなさまの熱い思いをお聞かせください。たくさんのご参加をお待ちしております。また、地域福祉計画や市民会議への市民のみなさまのご意見等を、事務局までお寄せください。

もっと深める芦屋のこと！ ～何ができたのか、課題は何か～

芦屋市福祉センターで開催！！



こんにちは。地域福祉課課員の 小川和真（おがわ・かずまさ）と申します。今回は2010年8月28日に行われました第1回の自主ゼミを、私がレポートさせていただきます。

さて、今回のゼミは、呉川町に新たにオープンした芦屋市福祉センター3階会議室1にて行われました。15人の市民委員が参加され、人数は少し寂しかったのですが、休憩時間にも皆さん熱心にお話されるほど、熱い自主ゼミとなりました！

この日の自主ゼミは、「前回の市民会議で出たさまざまな意見をもっと深めていこう！」がコンセプト。

今回も大阪ボランティア協会の岡村さんがファシリテーター役となり、巧みなトークで会議を進めていきました。

実は私…珠算の選手だったんです！



4つのグループに分かれ、導入ワーク。
「実は私〇〇なんです」というテーマでウォーミングアップをしました。

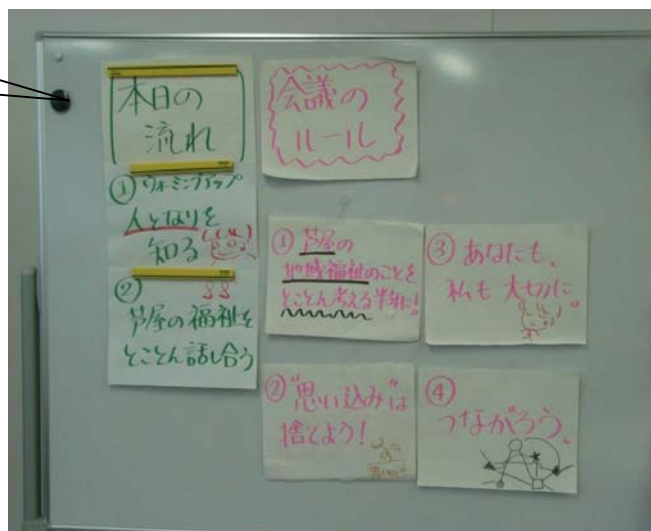
さすがお話好き(?)な皆さんばかりで、予定の時間をオーバーし、楽しい自己紹介タイムとなりました。

「実は…」という“魔法の言葉”を入れることにより、話しやすくなるとのこと。これからいろんな場で使えそうですね。

何のための会議？前は何をしたっけ？

楽しい自己紹介の後には、前回のふりかえり・復習として、この会議の目的・進め方などについて岡村さんから説明がありました。

「そもそも地域福祉って何だったっけ？」という質問もあり、皆さんの活動目的やルールを再認識する機会になりました。



私は芦屋について
こう思っている！



●芦屋は好きなところが多い
とのお話…

次回も、芦屋市福祉センターです！

★次回は…、

第2回市民会議：9月10日(金)午後1時30分～

テーマは「課題を整理し、重点課題を絞る」です！

☆今後の予定☆

- | | | |
|----------|-----------|-------------|
| ・第2回市民会議 | 9月10日(金) | 午後1時30分から5時 |
| ・自主ゼミ② | 10月23日(土) | 午後1時30分から5時 |
| ・第3回市民会議 | 12月13日(月) | 午後1時30分から5時 |



★ 次回も、委員のみなさまの熱い思いをお聞かせください。たくさんのご参加をお待ちしております。
また、地域福祉計画や市民会議への市民のみなさまのご意見等を、事務局までお寄せください。

さて、本題のワークの始まりです。
お題は、①地域福祉という観点で見たときに芦屋のまちの好きなところ、②嫌いなところ、③よりよいまちにするためにあなた／あなたの団体がしてきたこと、④もっと必要だと思うこと／あったらいいなと思うことの4つです。

お話を伺っていると、「芦屋は好きなところが多い！」とか、「嫌いなところあるかなあ？」といったご意見が多いように感じました。

それぞれのお題で15～30分の時間をとりましたが、それでも足りないようでした。

後半に入り、皆さんの意見を、手上げ方式で発表していただきました。

「集会所の数が少ない」、「気軽に使えない」といった意見が多く出され、皆で話し合える交流の場を多くの方が望んでいると感じました。

そのほか、「各町の行事以外の取り組み（クラスがごみを荒らさないようにする良い方法など）をシェアする方法がほしい!」、「他の町のことを知りたいので、芦屋のバスツアーをしてはどうか？」等々の意見が出ました。

終了予定時間を少し越えてしまいましたが、様々な立場の皆さまから、いろいろな意見を伺うことが出来ました。

次回は、今回出た話をもとに「課題を整理し、重点課題を絞る」よう、話し合っていたきたいと思います！

視点を整理し、重点課題を絞る ～芦屋市の次期地域福祉計画に向けて～

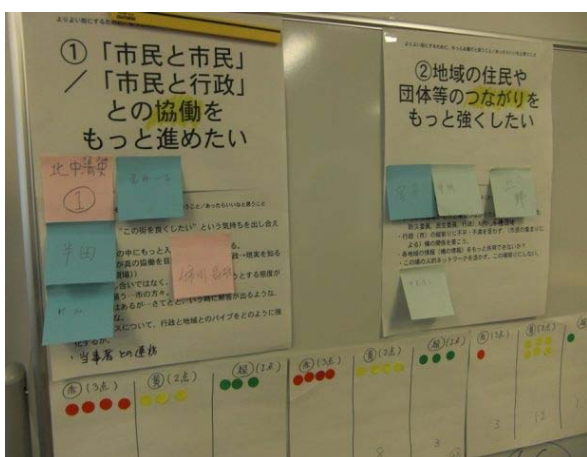
こんにちは。関西学院大学の和気輔（わき・たすく）です。2010年9月10日に行われました第2回市民会議をレポートさせていただきます（自主ゼミ①は、無人島キャンプのお手伝いで、お休みをいただいていた）。今回の会議も、前回と同じ芦屋市福祉センター3階会議室1にて開催。21人の市民委員が参加され、白熱した市民会議となりました。



この日の市民会議は、「芦屋市の現状をふまえ、重点的に取り組む課題を絞り込む」がコンセプト。今回も大阪ボランティア協会の岡村さんがファシリテーター役となり、首尾よく会議を進めて頂きました。



●市民会議が行われた会場です。



●検討する優先順位を、赤色3点、黄色2点、緑色1点のシールを貼って投票し、合計得点を集計。

まず、前回の自主ゼミ①で出された「芦屋をよりよいまちにするための8つの課題」について、追加すべき項目がないか話し合いました。その後、この市民会議で検討する優先順位を決めるためにみんなで投票し、得点と話しあいで次の5つの課題を選びました。

- ①「行政」／「地域」／「個人」の情報をもっと活かしたい
- ② 地域の住民や団体等のつながりをもっと強くしたい
- ③「市民」と「市民」／「市民」と「行政」との協働をもっと進めたい
- ④ 地域生活での困りごとを支援するサービスや活動を充実したい
- ⑤ 地域で話し合いや活動ができる拠点を確保したい

なお、その他に課題としてあげられていた「地域福祉活動、ボランティア活動の担い手を増やしたい」と「芦屋市内の移動（交通・道路など）をスムーズにしたい」④の課題とあわせて、また、「芦屋の自然や文化を地域福祉にもっと生かしたい」はすべての課題と絡めて検討することにしました。



- なぜ？なぜ？と掘り下げながら、みんなの意見を模造紙に書き込んでいきます。



- 全体共有での各グループの発表です。



- 牧里先生、佐瀬先生からもご助言いただきました

★次回は…

自主ゼミ②：10月23日(土)午後1時30分～

テーマは「こんなことが、できるのでは？」です！

☆今後の予定☆

- | | | |
|-----------|-----------|-------------|
| ・ 自主ゼミ② | 10月23日(土) | 午後1時30分から5時 |
| ・ 第3回市民会議 | 12月13日(月) | 午後1時30分から5時 |

★ 次回は、いよいよ具体的な対策について検討します。今回の市民会議の“キモ”の部分にあたります。引き続き、たくさんのご参加をお待ちしております。

また、地域福祉計画や市民会議への市民のみなさまのご意見等を、事務局までお寄せください。

休憩をはさみ、グループワークとして課題と原因を掘り下げていく「**マインドマッピング**」という手法にチャレンジしました。これは、意見を文字にして円のように配置することで、議論の堂々巡りを防いだり、意見の関係性をとらえやすくする方法です。

例えば、「なぜ、地域のつながりは強くないのか」という課題を模造紙の真ん中を書いて、考えられる複数の原因を周りに書き込んでいきます。そのそれぞれの第2段階の原因、さらなる第3段階の原因と、繰り返し書き込むといった具合です。

この話し合いでも、委員のみなさんから、和やかな中にも腹を割った芦屋への思いをたくさん伺うことができました。

最後に、各グループでの話し合いの結果を参加者全員で共有しながら、さらに話し合いたい視点を牧里委員長や佐瀬委員から提示していただきました。市民委員の方から「『原因』を考えると、つい『対策』も一緒に考えてしまう」という感想も出されましたが、**次回の自主ゼミ②では、今回出された「原因」をもとに、まさに「対策」を話し合う予定です。**

私たち、こんなことやります ～現状を変えるために、私たちができること～

こんにちは、関西学院大学の和気輔（わき・たすく）です。
2010年10月23日に行われました自主ゼミ②をレポートさせていただきます。

前回同様、芦屋市福祉センター3階会議室1で行われました。

この日の自主ゼミでは、『①課題分析をもう一步深める。
②自分たちでできることを考える。③1つ選んで企画の詳細をイメージする』以上の3つがテーマとして行われました。

また、今回も大阪ボランティア協会の岡村さんがファシリテーター役となり、会議を進めて頂きました。



- 前回マインドマッピングを振り返りながら議論を思い出します。



- 付箋を用いてお互いの考える案を出し合い、同じ意見は重ね、目的ごとに整理。

まず、前回の「マインドマッピング」手法を用いた議論を振り返りました。内容を思い出しつつ、さらなる意見を追加。課題分析を深めました。

休憩をはさみ、新たに「カードKJ法」という技法を用いて、マインドマッピングで見てきた現在の芦屋の現状を改善するべく、「こうしたい」「これができる」という手法を提案しました。

「〇〇のために、△△をする」という形で、1人3つアイデアを付箋に書きます。案を1人ずつグループ内で発表し、模造紙に付箋を貼りつけます。1枚の付箋に1つずつアイデアを記入し、同じ意見や目的ごとに整理するという進め方です。「ここはまとめていいですね」「いや、これはこっちの方がいいんじゃないか」「じゃあ、こことこことが繋がりますね」。これまで課題の原因分析を深めてきただけに、具体的な改善提案が次々と示されました。



●より具現化されていく案。深まる議論。
皆さんの知識、熱意に毎回感動させられています（和気）。

そして、まとめていったものの中から「もし、私たちで何か1つやるとしたら」と具体的な企画を各グループで考えました。詳細を考えてみたい取り組みを1つ選び、その取り組みの「タイトル」「ねらい」「対象」「やること」「あったら嬉しい応援」をそれぞれ考えます。そして、以上を企画書(風)にまとめました。

「芦屋市の地図がほしい！」という意見が出て、スタッフが地図を取りに走る場面も。ユーモアたっぷりの具体的計画に、会場は笑いが絶えませんでした。

最後に、次回の市民会議での最終プレゼンテーションに向けアナウンスがありました。

★次回は、**最終プレゼンテーション**です！！

第3回市民会議：12月13日(月)午後1時30分～

場所：芦屋市福祉センター 3階 会議室1

会議の流れ		
班	②「地域のつながり」班 ③「担い手を増やす」 ／④「福祉サービス充実」班 ⑤「情報を生かす」班 のみなさん	①「行政との協働」班 ⑥「拠点を確保」班 のみなさん
予定時間		
13時30分～	本日の流れを説明	
13時45分～	・プレゼンテーションの準備	・「現状を変えるために、私たちができること／やりたいこと」 ・プレゼンテーションの準備
15時～	休憩	
15時15分ごろ～	最終プレゼンテーション(7分発表) & 講評(7分)	
17時00分	終了	

★ ①「行政との協働」は班、⑥「拠点を確保」班のみなさんは、10月23日の「自主ゼミ②」をご欠席でしたので、前半の活動内容が他の班のみなさんと変わります。

ついに最終回です。ぜひ、ご出席ください～！

第二次地域福祉計画に向けて！ ～ 最終回・プレゼンテーション ～

こんにちは。地域福祉課課員の小川和真（おがわ・かずまさ）です。
今回でいよいよ最終回として2010年12月13日に行われました
第3回市民会議の様子を、私がレポートさせていただきます。

さて、今回も皆様のおなじみとなっている、芦屋市福祉センター
3階会議室1にて行われました。19人の市民委員が参加され、今ま
での総まとめとして、専門委員の先生方の前で、「第二次地域福祉
計画」に向けたプレゼンテーションを行いました。

まず、これまでの半年の取り組みを振り返りながら、4つのグループで提案をまとめていき
ました。そして、具体的な取り組みも含めたプレゼンテーションを行い、専門委員の先生方か
ら、印象に残ったこと、提案、市民会議全体について、講評していただきました。

最後に行政の担当者から、今後の計画策定の予定と、市民会議の成果をどのようにつないで
いくかを説明し、期待を新たにしながら、フィナーレを迎えました。



なつかしいなあ…



最初に、今回もご活躍いただきました
ファシリテーター岡村さんが、第1回か
らの流れをまとめたパワーポイントでプ
レゼンテーション。委員の皆さんの議論
の様子がスクリーンに映し出され、心地
よい音楽とともに記憶が呼び起こされま
した。夏から始まった市民会議を思い出
し、「あんなこともあったなあ～」「半そ
での季節から、もう寒くなったんだなあ」
といったことが聞こえてきました。

もっと伝えられることはないだろうか？

これまでの取り組みを思い出しながら、
グループごとに、この後に控えるプレゼン
テーションの準備です。

今日までの間にメンバーで自主的に集
まられたグループもあり、順調に準備がす
すんでいきましたが、「もっとこうしたほ
うがいいのではないか」といった、積極的
な意見が飛び交い、提案の中身がいつそ
う深められていきました。





Aグループの発表の様子



Bグループの発表の様子



Cグループの発表の様子



Dグループの発表の様子

- どのグループも、手法は違うものの、非常にわかりやすく“何を伝えたいか”が伝わってきました。念入りに発表の練習をされていたんでしょうか？皆さんの熱意で会場は熱気ムンムンでした！

さて、いよいよお楽しみのプレゼンテーション！ 模造紙、フリップ（紙芝居）、パワーポイントなど、各グループが趣向を凝らした発表が行われました。ここからは保健福祉部長も参加し、専門委員の先生方とともに、皆さんのアイディアに期待しながら耳を傾けました。

まずは、「A.『市民』と『市民』、『市民』と『行政』の協働をもっと進めたい！」というテーマについての発表です。このグループは前回の自主ゼミで話しあいができなかったのですが、短時間の中で、市民と協働するには、何か役割を持ってもらうこと、市民と行政の協働では、市民が職員に積極的に提案することや苦楽を共にすることが大切であり、いずれも「地道にしっかりやっていく」ことが大事なコンセプトだ、とまとめられました。

「B.地域の住民や団体等のつながりをもっと強くしたい！」が次のグループのテーマ。前回の後に自主的に集まって作成されたパワーポイントで発表されました。『ひとり一役運動』と名付けられた取り組みは“地域に関心のない人たちに関心を持ってもらうにはどうしたらいいか”に着眼点を置き、「それぐらいなら出来るかな…」と思えるような役割を地域にたくさんつくりながら、「みんなつながれ作戦」に挑戦するという、心強い“希望的宣言”も出されました。

続いては、「C.地域福祉活動、ボランティア活動の担い手を増やしたい・地域生活での困りごとを支援するサービスや活動を充実したい！」のグループです。具体的な取り組みとして、「市内各所に誰もが集えるベンチを設置し、マップを作成する『芦屋ベンチプロジェクト』を行い、ベンチにまつわるストーリーや、絵画を募集する」といったユニークな案が満載でした。

最後のグループは、「D.行政・地域・個人の情報をもっと活かしたい！」というテーマです。「行政からの情報は多すぎる」という課題に対し、『市民発信型の情報紙』をつくる。そして、「作成方法を学ぶため、市の広報紙づくりにも参加したい」というアイディアも出されました。これなら市民と行政の協働も深まりそうですね。

専門委員からの講評では、「提言で終わらず、実行していく姿勢が見えるので楽しみ」、「みんなで課題を“仕分け”した提案がきちんと取り入れられるかを見守っていこう」などのご意見や、「何のための“つながり”なのかももう一度考えてみては」といったアドバイスをいただき、“皆さんのこれからの活動に期待している”というお気持ちが伝わってきました。

これらをふまえ、今後の計画づくりの予定の説明と、「市民会議の報告を受けて市民参加で策定していく」という決意表明を、行政の担当者が行いました。

最後に保健福祉部長が感想とみなさんへのお礼を述べて、自主ゼミも含めると計5回の市民会議が終了となりました。

今回の市民会議は、今まで地域のために何かに取り組まれていた人も、これから取り組む人も、非常に良い情報交換と“夢を語れる場”になったと思います！



佐瀬先生からコメント



孫先生からコメント



意見交換



牧里先生からコメント

これまでご参加いただき、本当にありがとうございました。毎回長時間にもかかわらず、最後まで「地域福祉のためどうすればよいか？」真剣に、熱意を持ってチームワークを築き、毎回、繰り広げられる意見交換・・・胸が熱くなりました！！

みんなと協力し、話す内容を深めることで、地域のことを別の視点から見つめなおし、つながりの大切さを再認識することができたのではないのでしょうか。

さて、皆さんに提案いただいたプレゼンテーションなどをもとに、「報告書」を作成します。ぜひ、セカンドステージである検討委員会（部会）につなげていきたいです。

皆さんの思いを次の地域福祉計画策定委員会へと「つなぐ」ため、メッセージをお送りください。「報告書」の中に掲載させていただきます。 (事務局 寺本・竹辺)

きびしくもあたたかい助言を いただいた専門委員のみなさま

関西学院大学 牧里 每治 教授
関西学院大学 孫 良 准教授
甲南女子大学 佐瀬 美恵子准教授

みんなで考え 議論してきました

— 市民会議のメンバー —

会議の活動力市民委員のみなさま

社会福祉協議会 宮平 太さん, 佐津間 裕美子さん
自治会連合会 今村 千顯さん, 本郷 孝さん
民生児童委員協議会 福井 千鶴さん, 東郷 明子さん
目黒 清子さん, 半田 孝代さん
福祉推進委員 片山 良子さん, 山本 弘美さん
内藤 友子さん
コムスク連絡協議会 隈本 由紀子さん, 多田 洋子さん
守上 三奈子さん
子ども会連絡協議会 北中 清史さん
老人クラブ連合会 福永 公子さん
あじさいの会 中谷 多恵子さん, 浅田 廣子さん
身体障害者福祉協会 杉田 俱子さん
身体障害児者父母の会 木村 和子さん
NPO法人芦屋市手をつなぐ育成会 朝倉 己作さん
芦屋家族会 中島 洋子さん
島 サヨミさん
芦屋市商工会 中村 美津子さん
(特活)あしやNPOセンター
上野 義治さん
芦屋いきいき学ぶ会 三木 弘子さん
公募委員
鴛海 一吉さん, 船橋 久郎さん
姉川 昌雄さん, 久武 正明さん
許 和子さん, 野島 さゆりさん

縁の下の力持ち

大阪ボランティア協会 岡村 こず恵さん
エフプラン研究所 原田 仁さん
関西学院大学 和気 輔さん

互いに学びあった

高年福祉課 細井 洋海
吉川 里香
大阪ボランティア協会 江渕さん

編集後記・・・

このたび、市民会議のニュースレターを書かせていただきました。皆様と議論することこそありませんでしたが、市民会議を通して多くのことを学ばせていただきました。これからの残りの学生生活の中で今回の学びを活かせるようこれからも努力していきたいと考えています。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。 関西学院大学 和気 輔

事務局

磯森 健二, 寺本 慎児
竹迫 留利子, 小川 和真
松井 佑季, 福岡 枝里子

5回にわたる(ゼミ含む)市民会議、当初はこんなに皆さん熱く議論されるものとは思わず、私自身楽しんで参加させていただきました。ニュースレターは2回執筆いたしました。今までこういった記事を書いたことがなく、戸惑いながらも、レイアウトや記事のまとめ方など、大変勉強になりました。今回が最後のニュースレターになりますが、今まで読んでくださった皆さん、ありがとうございました。

地域福祉課 小川 和真

芦屋市地域福祉市民会議（地域福祉を話しあう会）
報告書
平成23年1月

発行 芦屋市

編集 芦屋市保健福祉部地域福祉課

〒659-8501

兵庫県芦屋市精道町7-6

Tel 0797-38-2040

Fax 0797-38-2160
